

# Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

Title	〈資料〉 日本・ラテンアメリカ関係日誌—2005年—
Author(s)	
Journal	イベロアメリカ研究, 28(2)
Issue Date	2007-02-05
Type	紀要/Departmental Bulletin Paper
Text Version	出版者/Publisher
URL	<a href="http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/9702">http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/9702</a>
Rights	



上智大学  
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

《 資 料 》

日本・ラテンアメリカ関係日誌－２００５年－

月 日	国名	記事
1・3	ベネズエラ	ボクシングのWBAフライ級タイトルマッチが東京・有明コロシアムで行なわれ、同級7位のトラッシュ中沼は無敗の王者ロレンソ・パーラ(ベネズエラ)に0-3の判定で敗れた。(AH)
1・5	メキシコ	シャープは高精細の背面投射(リアプロジェクション)型テレビ市場に参入し、メキシコで生産をすることを発表した。(NE)
1・12	コロンビア	昨年8月に神奈川県秦野市で会社社長が現金約2700万円を奪われた強盗事件の犯人として、コロンビア人のフレディ・レイ、ピンソ・マウリシオ両被告が強盗傷害容疑で逮捕、起訴されていたことが分かった。(NE)
1・12	チリ	外務省幹部は、日本とチリによる自由貿易協定締結に向けた産学官の共同研究会の初会合を1月31日、2月1日の両日、東京で開くことを明らかにした。3か月に1回程度のペースで開く。(NK)
1・12	メキシコ	米国で携帯電話機器などを製造している京セラ・ワイヤレスは、3月末までに製造工程の大半をカリフォルニア州サンディエゴにある本社工場から、メキシコのティファナ市にある関連企業の工場に移管すると発表した。(NE)
1・13	ブラジル	サッカーのJ1広島はブラジルのパラナからFWガウボンを期限付き移籍で獲得したと発表した。期間は1月20日から2006年1月1日まで。(NK)
1・17	ブラジル	日本にブラジルのエタノール燃料を売り込むため、22日までの日程で両国の民間団体が主体の使節団が経済産業省などを訪問。5月のルラ大統領訪日を控え、対日輸出拡大の可能性を探る。(NK)
1・18	ニカラグア	日本政府はニカラグア政府に対し8億円の無償資金協力(ノンプロジェクト無償資金協力)を行なうこととし、このための書簡の交換がマナグアにおいて加賀美充洋駐ニカラグア大使とノルマン・カルデナル外務大臣との間で行なわれた。(IL)
1・21	ホンジュラス	日本政府はホンジュラス政府に対し、5億円の無償資金協力(ノンプロジェクト無償資金協力)を行うこととし、このための書簡の交換がテグシガルパにおいて肥塚隆駐ホンジュラス大使とレオニダス・ロサ・パウティスタ外務大臣との間で行なわれた。(IL)

1・22	ボリビア	日本政府はボリビア政府に対し、ノンプロジェクト無償資金協力および日本・ボリビア友好橋改修計画実施に資することを目的として合計10億2300万円を限度とする額の無償資金協力を行うこととし、このための書簡の交換が白川光徳駐ボリビア大使とフアン・イグナシオ・シーレス・デル・バジェ外務大臣との間で行なわれた。(IL)
1・28	メキシコ	ブリヂストンはメキシコにタイヤの新工場を建設すると発表した。約2億2000万ドルを投資、高級乗用車や小型トラック向けの高性能タイヤを生産する。建設予定地は北部のヌエボ・レオン州で、2007年7月の生産開始を目指す。(NK)
2・1	メキシコ	トヨタ自動車はメキシコ・テカテで同社初のメキシコ生産拠点となるトヨタ・マニュファクチャリング・デ・バハカリフォルニアの開所式を行なった。メキシコ工場は同社にとって北米5番目の工場となる。(NE)
2・3	ブラジル	味の素のブラジル子会社、味の素インテルアメリカーナ(サンパウロ)がサンパウロ州内で建設していた医薬・食品用アミノ酸の新工場が完成した。同分野のアミノ酸生産工場としては同社最大規模。(NE)
2・7	ブラジル	自宅で知人女性の体を触ったとして、強制わいせつ罪に問われたサッカーのJリーグ、ジェフ千葉所属のブラジル人選手、サンドロ・カルドゾ・ドス・サントス被告の判決公判が東京地裁で開かれ、懲役10月、執行猶予3年(求刑懲役1年6月)が言い渡された。(NK)
2・11	チリ	チリ司法当局は、チリ人女性5人を日本に送り込み売春を強要した容疑で、青森県住宅供給公社の巨額横領事件で服役中の元公社職員のチリ人妻、アニータ・アルバラド容疑者を逮捕した。(YE)
2・16	メキシコ	神奈川県秦野市で昨年8月に会社社長が2700万円を奪われた強盗事件で、神奈川県警は主犯格のメキシコ人、マルコ・アントニオ・フローレス・アルキシラ容疑者を強盗傷害容疑で逮捕した。この事件ではすでにコロンビア人の男2人が同罪で起訴されている。(NK)
2・21	チリ	サンティアゴ高裁はチリ人女性を売春のため日本に送り込んだとして売春教唆の罪で起訴されていたアニータ・アルバラド被告について、弁護団の申し立てを認め、証拠不十分として釈放を命じた。(YE)
2・22	ブラジル	新日本製鉄は、ブラジルの資源大手リオドセと進めていた2005年度の鉄鉱石価格交渉が前年度比71.5%の値上げで決着したと発表した。値上げは3年連続で、単年度の上げ幅としては過去最高になる。(NK)
2・28	アルゼンチン	トヨタ自動車はアルゼンチン工場で国際戦略車「IMV」の生産を開始した。年度末には生産能力を当初の2.6倍に引き上げ、中南米地域への供給を拡大し同地域での生産販売体制強化を図る。また同社は3月1日、中南米市場でのシェアを、今後10年以内に現在の2倍にあたる10%以上を目指す方針を明らかにした。(NE)

3・3	ブラジル	三菱商事と丸紅が共同出資で新会社を設立し、ブラジル沖の油田プロジェクトに取り組むことが報じられた。洋上に原油出荷基地を建設し、同国のペトロブラスが運営する海底油田の原油輸送を効率化する。総投資額は約9億ドルで、日本企業のブラジルでの事業としては有数の規模となる。(NK)
3・7	メキシコ	来日中のハビエル・ウサビアガ農相は、BSE(牛海綿状脳症)に絡み米国産牛肉の輸入再開交渉が難航していることをにらみ、牛肉の対日輸出拡大を図る考えを表明した。輸出に際しては、日本が求める安全基準を尊重する姿勢を強調した。(NK)
3・12	ブラジル	YKKのブラジル現地法人、YKK・ド・ブラジルはファスナー生産を強化するため、サンパウロ州ソロカバ市の工場に2008年までに3000万ドルを投資する計画を明らかにしたことが報じられた。ブラジルでは装飾用ファスナー付きジーンズやパンツが流行していることから、増産体制を整える。(NK)
3・16	ポリビア	来日中のシレス外相は、日本が拒否権付きの国連安全保障理事会常任理事国になることを支持すると表明した。(NK)
3・17	ブラジル	石川島播磨重工業は、米ゼネラル・エレクトリック社と共同で100席級の小型旅客機向けの新エンジンの商業出荷を始めると発表した。ブラジルのエンブラエルの新型旅客機への独占供給が決まっており、今後20年間で約2000億円の売上高を見込んでいる。(NS)
3・17	ブラジル	東京ガスはブラジルの天然ガスパイプライン建設・運営事業に参画すると発表した。三井物産などによる現地の共同出資会社に、子会社を通じて15%出資し、主にパイプライン工事の技術支援を行なう予定。(NS)
3・21	ペルー	米銅大手のフェルプスドッジは、傘下のペルー銅鉱山「セロ・ベルデ」が実施する増資に住友金属鉱山、住友商事が加わり、増資後の両社の出資比率を全体の21-24.99%とすることで合意したと発表した。(NE)
3・22	ブラジル	サンパウロ州グアルジャで軽食店を経営する沖縄出身の日本人女性、大城タエコさんが車を運転中に、バイクに乗った2人組の強盗に銃で首を撃たれて死亡した。(YE)
3・22	ブラジル	ブラジル南部のクリチバ市にあるサッカー場が「京セラ・アリーナ」と名づけられたと報じられた。京セラの関連会社、京セラ・ミタ・アメリカ社(米国)がスポンサー契約したもので、契約期間は最低3年。契約金額は明らかにされていないが、地元紙は年間約200万ドルで最長5年の契約と報じている。このサッカー場は昨シーズン2位になったクラブチーム「アトレチコ・パラナエンセ」の本拠地。(NK)
3・22	ブラジル	川崎重工業はブラジルのツバロン製鉄所からコークスの製造過程で発生するガスを燃料に使う発電プラントを受注したと発表した。世界の鉄鋼大手はコークスガスなど製鉄過程で出る排ガスの有効活用を勧めている。(NS)

3・25	南米	ブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイの4カ国が加盟するメルコスル（南米南部共同市場）は、国際協力機構（JICA）の協力を得て、都内に観光事務所を開設した。（NE）
3・31	メキシコ	帝人はメキシコの生産子会社の全株式を合併相手の現地企業に売却、同国でのポリエステル繊維事業から撤退すると発表した。中国などアジアから安い繊維製品の流入拡大で業績が悪化したため。（NE）
3・31	メキシコ	来日中のフェルナンド・カナレス経済相は、日本・メキシコ自由貿易協定が4月1日に発効するのに伴い、初年度の対日輸出額が農産物を中心に前年度比20%増の25億ドルに達すると述べた。（NK）
4・1	ウルグアイ	外務省人事。久山慎一前総務省審議官をウルグアイ大使に任命。（IL）
4・1	メキシコ	日本とメキシコの自由貿易協定が発効し、メキシコから輸入される豚肉やオレンジ果汁などの農産物の値下がりや、日本の自動車メーカーの輸出拡大の動きが加速する見込み。日本にとってはシンガポールに次ぐ2カ国目で、農産物を含む包括協定としては初めて。（AH）
4・1	メキシコ	日墨両政府は、両国間の自由貿易協定（FTA）が同日発効したことを受け、都内で協定の円滑な運用に向けた手続きを決める両国経済閣僚による合同委員会を開いた。日本側から町村外相、谷垣財務相、島村農相、中川経済産業相、メキシコからカナレス経済相が出席し、FTAをてこに経済連携を推進することを確認した。（NK）
4・4	メキシコ	世界ボクシング評議会（WTA）ミニマム級タイトルマッチ12回戦が大阪市中央体育館で行なわれ、挑戦者で同級13位の高山勝成選手がチャンピオンのイサク・ブストス選手を3-0の判定で破り、世界初挑戦でタイトル奪取に成功した。（NK）
4・5	ドミニカ共和国	ホセ・デル・カルメン・ウレニャ駐日ドミニカ共和国大使が、天皇陛下に信任状を捧呈した。（IL）
4・5	南米	国際協力銀行は、アンデス開発公社との間で中南米地域におけるクリーン開発メカニズムの活用推進に関する業務協力協定を締結した。（IL）
4・7	中南米	日本語が十分に使いこなせず指導を必要とする外国人の児童生徒が、昨年の9月1日現在で全国の公立小中高校などで計1万9678人（前年比636人増）に上り、過去最多となったことが文部科学省の調査で分かった。母語別では、ポルトガル語が7033人で最も多く、スペイン語（2691人）は中国語に次いで3番目であった。（YU）
4・10	コロンビア	国際協力銀行はコロンビア環境省との間で、同国におけるクリーン開発メカニズム推進に関する業務協力協定を締結した。（IL）

4・10	コロンビア	来日中のウリベ大統領は沖縄県宜野湾市で国際協力銀行と、二酸化炭素など温暖化ガス削減プロジェクトでの業務協力協定を結んだ。コロンビア政府が開発案件情報を国際協力銀行に提供。同銀が案件ごとに事業規模や実現性、削減効率などを勘案し、融資額や融資方法を定める。(NK)
4・10	中南米	米州開発銀行年次総会が、沖縄県宜野湾市で開催した。イグレンシアス総裁が「中南米諸国は日本に門戸をさらに開放し、中南米への投資や技術移転が進むことを期待する」と総括し、12日に閉幕した。総会では、中南米諸国の中小企業支援のための投資基金の増資規模を5億182万ドルとすることを了承。日本と韓国が中南米との自由貿易協定などを通じて貿易・投資の橋渡し役を果たすことを確認した。(NK)
4・11	コロンビア	小泉純一郎首相は首相官邸でウリベ大統領と会談し、「コロンビアと協力し国連安全保障理事会の改革を今年度中に実現したい」と協力を求めた。大統領は「日本が常任理事国入りを希望していることは十分承知している」と述べるにとどめ、共同歩調を取ることに慎重な姿勢を示した。(NK)
4・11	メキシコ	国際協力銀行は、沖縄で開催中の米州開発銀行年次総会において、メキシコ外国貿易銀行との間で総額1億ドルを限度とした貸付契約に調印した。本融資は東京三菱銀行およびみずほコーポレート銀行との協調融資で、民間金融機関の融資部分に対しては国際協力銀行が保証を行なう。(IL)
4・16	ウルグアイ	ラグビーの日本代表はモンテビデオでウルグアイ代表と南米遠征第1戦を行い、18-24で敗れた。(NK)
4・23	アルゼンチン	ラグビーの日本代表はブエノスアイレスでアルゼンチン代表と南米遠征第2戦を行い、36-68で敗れた。日本はウルグアイ代表戦でも敗れており、通算成績2敗で遠征日程を終了。(NK)
4・25	アルゼンチン	サッカーJ1のFC東京は、アルゼンチンの強豪ボカ・ジュニアーズと7月29日に味の素スタジアムで行なう予定だった親善試合を中止すると発表した。細部の条件面で最終合意に至らなかったという。(NK)
4・28	ブラジル	東京海上日動火災保険は、オランダの大手金融機関ABNアムロからブラジルの大手保険会社を買収すると発表した。買収額は約359億円で東京海上日動を核とするミレアホールディングスの買収や資本参加で過去最高。損害保険のリアルセグロス社の発行済み全株式と生命保険会社・年金のリアルヴィダ社の同50%を買い取る。2社合計の収入保険料は年間約750億円で、ブラジル保険市場で第7位。(NK)
5・4	ブラジル	町村外相は経済協力開発機構本部でブラジルのセルソ・アモリン外相と会談し、国連安全保障理事会改革について「力を合わせ、常任理事国の拡大を中心に安保理改革を実現しよう」と呼びかけた。(YU)
5・12	ブラジル ウルグアイ	リオデジャネイロで開かれているビーチサッカーの世界カップ準々決勝で、日本はウルグアイに4-3で勝利し4強入りを果たした。(AE)

5・13	南米	愛知万博(愛・地球博)で唯一開館していなかったアンデス共同館がオープンした。同館はエクアドル、ペルー、ボリビア、ベネズエラの南米4カ国の共同出展。同館などによると、2月末に環境破壊の展示を加えるなどしたため、工事が万博のオープンに間に合わなかったという。(NE)
5・15	ブラジル	岐阜県多治見市で警察官が2人組の男に拳銃を強奪された事件で、岐阜県警はブラジル国籍のエグチ・マウロ・デ・ソウザとエグチ・ジョルジ・エドガル・デ・ソウザの両容疑者を強盗致傷容疑で指名手配した。(AH)
5・16	ブラジル	国連安全保障理事会の常任理事国入りを目指す日本、ドイツ、インド、ブラジルの4カ国は、ニューヨークで約60カ国に対し、安全保障理事国を現在より10カ国増やして25カ国にする決議案の原案を提示した。加盟国の意見を聞きながら、拒否権の扱いなど細部を詰める予定。(NE)
5・17	メキシコ	外務省人事。成田右文駐ペルー大使を、駐メキシコ大使に任命。(IL)
5・22	ブラジル	外務省人事。伊藤栄治在ブリスベン総領事館兼ケアンズ出張駐在官事務所領事をレシフェ総領事に任命。(IL)
5・22	ペルー	サッカーのキリンカップが新潟スタジアムで開幕し、日本代表はペルー代表に0-1で敗れた。(NK)
5・24	チリ	サッカーのU-20(20歳以下)日本代表は、豊田スタジアムでU-20チリ代表と国際親善試合を行い、1-1で引き分けた。(NK)
5・24	パラグアイ	東部のサンタロサ市で牧畜・製材業の新井弘之さん(50、さいたま市出身)が4月、東部などを銃で撃たれた遺体で発見されていたことが分かった。新井さんは2月から行方不明になっていたが、4月末に牧場の従業員が雇ったと見られる殺し屋2人が殺人容疑で逮捕され、供述から遺体が発見された。パラグアイではここ3年で、日本人移住者に対する殺人事件が頻発し、犠牲者は新井さんを含めて7人となった。(NE)
5・26	ブラジル	小泉純一郎首相は、首相官邸でブラジルのルラ大統領と会談し、国連安全保障理事会常任理事国入りへの連携強化を確認した。資源・エネルギー開発で緊密に協力することでも一致し、両首脳は安保理改革決議案の共同提案国になるよう加盟国に呼びかける共同声明や資源・エネルギー分野の投資拡大を盛り込んだ共同プログラムを発表した。(NK)
5・27	ブラジル	国際協力銀行は、ブラジルの政府系銀行であるブラジル国立経済社会開発銀行とエネルギー分野で5億ドルの融資契約を結んだと発表した。ブラジル国立経済社会開発銀行が日系企業の設備投資などの資金を提供し、インフラを整備、石油などの対日輸出の拡大を目指す。(NK)
5・27	ブラジル	三井物産と伊藤忠商事は、ブラジル国営石油会社ペトロプラスと同国サンパウロ州にある製油所の近代化推進で合意したと発表した。三井物産と伊藤忠商事両社が、ペトロプラスの既存製油所に重質油を処理する設備やガソリンから環境負荷の大きい物質を除去する設備を新設する。総事業費は9億ドル。(NK)

6・1	チリ	住友金属鉱山と住友商事は、米資源大手フェルプス・ドッジがチリ北部で手掛ける探鉱事業に資本参加すると発表した。2社で総額の2割に当たる2500万ドルを出資し、鉱山開発につながった場合産出する銅の2割を引き取る権利を持つ。(NS)
6・2	エルサルバドル グアテマラ ホンジュラス	日本政府および国連は、国連婦人開発基金および国連プロジェクト・サービス機関がエルサルバドル、ホンジュラス、グアテマラにおいて実施する「中米3カ国における貧困・未成年女性支援(性的搾取からの保護と人権の推進)」プロジェクトに対し、人間の安全保障基金を通じ、総額154万1925ドルの支援を行なうことを決定した。(IL)
6・2	コロンビア	コロンビア検察当局は、自動車部品大手「矢崎総業」現地法人の村松治夫副社長が2001年に誘拐され、後に殺害された事件をめぐり、事件に関与した3名をボゴタ市内で逮捕したことを明らかにした。(YU)
6・5	ブラジル	岐阜県多治見市で警察官が拳銃を強奪され負傷した事件で、多治見署は強盗傷害容疑で指名手配していた日系ブラジル人の兄弟、エグチ・マウロ・デ・ソウザとエグチ・ジョルジ・エドガル・デ・ソウザの両容疑者を静岡県内で発見、逮捕した。(NK)
6・6	ブラジル	静岡県湖西市の新幹線の線路内に不審者がいるとの情報で東海道新幹線のダイヤが乱れた問題で、新居署はブラジル国籍の工員エデソン・オノテラ容疑者を新幹線特例法違反の疑いで逮捕した。調べに対しオノテラ容疑者は線路に立ち上ったことを認め、「新幹線を近くで見たかった」などと話しているという。(YE)
6・15	ブラジル	外務省人事。石田仁弘在サンパウロ総領事を駐ペルー大使に任命。(IL)
6・16	メキシコ	ドイツで行なわれているサッカーのコンフェデレーションズカップ1次リーグ初戦で、日本代表はメキシコ代表に1-2で敗れた。(NK)
6・22	ブラジル	サッカーのコンフェデレーションズカップで、日本代表はブラジル代表と対戦し2-2で引き分けた。ともに1勝1分け1敗の勝ち点4で並んだが、日本は得失点差で及ばず準決勝進出はならなかった。(NE)
6・23	エクアドル	全日空商事はエクアドルで日系人が経営するバナナ園「田辺農園」から独占輸入販売権を得たと発表した。同農園では化学肥料や除草剤、殺虫剤をほとんど使わず、傷んだバナナや葉など食べられない部分も有機肥料化している。(NS)
6・26	ブラジル	バレーボール女子の世界グランプリは国立代々木体育館で予選ラウンド東京大会が行なわれ、日本はブラジルに2-3で逆転負けした。(NK)
7・1	セントクリストファー・ ネーヴィス	日本政府はセントクリストファー・ネーヴィス政府に対し、「零細漁業振興計画」の実施に資することを目的として、総額6億1700万円を限度とする無償資金協力を行うこととし、このための書簡の交換が加藤重信駐トリニダード・トバゴ大使とデンジル・ダグラス首相との間で行なわれた。(IL)

7・1	メキシコ ベリーズ	外務省人事。成田右文駐メキシコ大使を兼ベリーズ大使に任命。(IL)
7・2	パラグアイ	サッカーJ1のFC東京は、パラグアイ1部リーグのセロ・ポルテーニョから同国代表のFWササ・サルセードの加入が内定したと発表した。(NK)
7・4	ペルー	ペルー政府は日本滞在中のフジモリ元大統領の新たな身分証を発行し、リマの外務省で次男のケンジ氏が受け取った。フジモリ氏は帰国して来年の大統領選挙に出馬するために必要な手続きとして、東京都内のペルー総領事館で身分証更新の申請をしていた。(AE)
7・5	ブラジル	サッカー日本代表のジーコ監督は帰省先のリオデジャネイロで地元のグロボテレビに「指揮を執るのはワールドカップまで」と語り、2006年W杯以降は日本代表監督を続ける意思のないことを明らかにした。(YE)
7・6	エクアドル	日本政府はエクアドル政府に対し、「チンボラソ州地下水開発計画」の実施に資することを目的として2億7000万円を限度とする額の無償資金協力を行なうこととし、このための書簡の交換が平松弘行駐エクアドル大使とアントニオ・パラ・ヒル外務大臣との間で行なわれた。(IL)
7・6	ブラジル	日本、ドイツ、インド、ブラジルの4ヵ国は、国連安全保障理事会を現行の15ヵ国から25ヵ国に増やす「枠組み決議案」を国連事務局に提出した。(NE)
7・7	ボリビア	日本政府はボリビア政府に対し、「日本・ボリビア友好橋改修計画」および「ラパス県村落開発機材整備計画」に資することを目的として合計10億3400万円を限度とする額の無償資金協力を行うこととし、このための書簡が白川光徳駐ボリビア大使とアルマンド・ロアイサ・マリアカ外務・宗務大臣との間で行なわれた。(IL)
7・13	ブラジル	ブラジルの航空機メーカー、エンブラエルの子会社サトシ・ヨコタ副社長は大阪市の「世界ものづくりサミット」のフォーラムで行なった中型ジェット機の開発戦略の講演で、販売実績が無い日本の航空会社への早期納入を目指す考えを明らかにした。(NS)
7・15	ブラジル	外務省人事。西林万寿夫在ボストン総領事を在サンパウロ総領事に任命。(IL)
7・16	ブラジル	バレーボール女子の世界グランプリ決勝リーグで、日本は5度目の優勝を目指すブラジルと対戦し1-3で敗れた。(NK)
7・16	メキシコ	画家の岡本太郎さんが1968-69年にメキシコで作成し、30年以上も所在が分からなくなっていた巨大壁画「明日の神話」が、本格的な修復のため愛媛県東温市の作業場に搬入され、一部が報道陣に公開された。(NK)
7・17	キューバ	バレーボール女子の世界グランプリ決勝リーグが仙台市体育館で行なわれ、日本はキューバに2-3で敗れた。(NK)
7・19	ブラジル	外務省人事。中軽米重男大臣官房総務課警備対策室長を在ベレン総領事に任命。(IL)

7・20	セントクリストファー・ネーヴィス	エロル・エー・エル・メイナード駐日セントクリストファー・ネーヴィス大使が、天皇陛下に信任状を捧呈した。(IL)
7・27	ブラジル	テンプスタッフ子会社で製造業派遣のテンプロス(東京)は、ブラジルで現地法人を設立すると発表した。日本の製造現場で求人が拡大している日系ブラジル人の派遣事業拡大が目的。(NS)
8・3	メキシコ	サッカーのJ2仙台は、FW福田健二選手がメキシコ2部リーグのイラプアトへ12月31日までの期限付きで移籍すると発表した。(NK)
8・5	ハイチ	日本政府はハイチに対し、国連開発計画を通じハイチ選挙プロセスに対する緊急援助を目的として、約89万ドルの緊急無償資金協力を行なうことを決定した。(IL)
8・5	ブラジル	サンパウロ市議会が広島への原爆投下による被害者への追悼イベントを初めて実施した。(NE)
8・8	チリ	三菱重工業は、三菱電機、三菱商事と共同で、チリの電力会社エンデサ・チリから大型発電所の建設を受注したと発表した。ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた最新式で、建設費は総額250億円前後のもよう。(NK)
8・9	ブラジル	サッカーJ1の横浜Mは、磐田からブラジル人FWのグラウを完全移籍で獲得したと発表した。グラウは2002年に磐田入りし、リーグ通算69試合出場で38点を挙げている。(NK)
8・18	中米	国際協力銀行は中米経済統合銀行との間で、総額1億ドルを限度とした貸付契約に調印した。(IL)
8・18	中米	小泉純一郎首相は首相官邸でパナマなど中米7カ国との首脳会合を開き、日本が中米の地域統合を支持・支援することを打ち出した「東京宣言」と「行動計画」を採択した。日本はインフラ整備などの経済支援、投資促進に取り組むことを表明、中米は国連安保理改革をめぐり「新常任理事国の選挙では日本に投票する」と明記した。(NK)
8・18	中米	国際協力銀行は、中米5カ国での温暖化ガス削減事業を対象に、みずほコーポレート銀行などと総額1億ドルの協調融資を実施すると発表した。水力発電などの事業で得られる排出権を日本企業に優先販売することが条件で、日本企業の排出権取得を後押しする。(NS)
8・19	エクアドル	帝国石油はエクアドル北東部の外国石油会社への住民の抗議運動の影響で、現地子会社の原油産出量が通常時の10分の1に減少したことを明らかにした。(NK)
8・22	ボリビア	12月に予定されているボリビア大統領選挙で、中道左派政党の民族革命運動(MNR)はサンタクルス市在住の日系人でコンサルタント会社経営、ミチアキ・ナガタニ氏を大統領候補に選出した。(NE)

8・24	ボリビア	日本政府はボリビア政府に対し、経済構造改善努力推進および医療保険分野での協力を目的として総額16億4700万円の無償資金協力を行うこととし、このための書簡の交換が白川光徳駐ボリビア大使とアルマンド・ロアイサ・マリアカ外務・宗務大臣との間で行なわれた。(IL)
8・25	ブラジル	国際協力銀行はブラジルのアルプラスとの間で、民間金融機関との協調融資により総額3億ドルを限度とした貸付契約に調印した。みずほコーポレート銀行が幹事行として民間金融機関を取りまとめ、民間金融機関の融資部分に対しては国際協力銀行が保証を付与する。(IL)
8・29	メキシコ	日本航空はメキシコ最大手のメキシカーナ航空と提携し、10月30日から共同運航を始めると発表した。米ロサンゼルスメキシコ市などメキシカーナ航空の運航する4路線にJALの便名をつけ、JALの運航する東京ロサンゼルスなど2路線にメキシカーナの便名をつける。(YU)
8・31	グアテマラ	日本政府はグアテマラ政府に対し、貧困削減等の経済構造改善努力に資することを目的として5億円の無償資金協力を行うこととし、このための書簡の交換が四之宮平佑駐グアテマラ大使とホルヘ・ブリッツ・アブララチ外務大臣の間で行なわれた。(IL)
9・1	ブラジル	外務省人事。瀬川進フォーリン・プレスセンター総括企画課長を在マナウス総領事に任命。(IL)
9・2	メキシコ	スズキは10月からメキシコで自動車販売を始めると発表した。メキシコ市など主要都市に5店舗を開設し、SUVと小型セダンの2車種を年間3000台販売する計画。4月に日本とメキシコの間で自由貿易協定が締結され、関税引き下げが実現したことから、市場参入の条件が整ったと判断した。(NS)
9・7	ペルー	国際協力銀行はペルーのリマにて、京都メカニズムに関するペルーの統括機関である国家環境審議会およびクリーン開発メカニズム(CDM)関連プロジェクトの発掘・促進機関である国家環境基金との間で、同国におけるCDM推進に係る業務協力協定を締結した。(IL)
9・7	ホンジュラス	サッカーのキリン・チャレンジカップ、日本代表対ホンジュラス代表戦が宮城スタジアムで行なわれ、日本が5-4で勝った。(NK)
9・13	ペルー	日本に滞在中のフジモリ元大統領は、東京都内のペルー総領事館にパスポートを申請し、同日午後に受け取ったことを、同氏を支持する「シ・クンブレ」が明らかにした。(NK)
9・25	メキシコ	東京・上野動物園で繁殖のため飼育されていたメキシコの動物園出身のパンダ、シュアンシュアン(雌18歳)の帰国を翌日に控え、上野動物園のパンダ舎前で「お別れ会」が開かれた。地元の幼稚園児約60人が「ありがとう」「元気でね」などと寄せ書きした紙が、メキシコ側の関係者に手渡された。(YU)

9・28	グアテマラ	日本政府はグアテマラ政府に対し、和平地域道路整備計画のため73億5700万円を限度とする円借款を供与することとし、このための書簡の交換が四之宮平佑駐グアテマラ大使とホルヘ・ブリッツ・アブララチ外務大臣との間で行なわれた。(IL)
9・30	ペルー	国際協力銀行はペルー法人ソシエダー・ミネラ・セロベルデとの間で、民間金融機関との協調融資により総額2億4750万ドルを限度とした融資契約に調印した。民間金融機関の融資部分に対し、国際協力銀行がポリティカルリスクにかかる保証を供与する。(IL)
9・30	メキシコ	国際協力銀行はメキシコ石油公社(PEMEX)との間で、総額4100万ドルを限度とする貸付契約に調印した。本融資はPEMEXに対して日本海洋掘削が初めて供与する技術支援に充当される。(IL)
10・3	中南米	外務省人事。平田健治大臣官房総務課監察査察室長を中南米局南米カリブ課長に任命。(IL)
10・7	ペルー	日本で事実上の亡命生活をしているフジモリ元大統領は、「大統領候補としての要件を満たしており、ペルー国民のために働きたい」と述べ、来年4月のペルー大統領選に立候補する意欲を表明した。(AH)
10・27	ニカラグア	日本政府はニカラグア政府に対し、8億円の無償資金協力(ノン・プロジェクト無償資金協力)を行うこととし、このための書簡の交換が加賀美充洋駐ニカラグア大使とノルマン・カルデラ・ニカラグア外務大臣との間で行なわれた。(IL)
10・27	ベネズエラ	国際協力銀行はベネズエラ政府との間で、総額約158億円を限度とする貸付契約に調印した。本融資は、丸紅を含む国際コンソーシアムがベネズエラ政府100%出資のベネズエラ国鉄より受注した車両保守基地等の鉄道関連設備の輸出を金融面から支援するもの。(IL)
10・29	パラグアイ	小泉純一郎首相は、京都迎賓館で来日中のパラグアイのドゥアルテ大統領と会談した。(NK)
10・31	ベネズエラ	セイコウ・ルイス・イシカワ・コバヤシ駐日ベネズエラ大使が、天皇陛下に信任状を捧呈した。(IL)
11・1	パラグアイ	国際協力銀行は、京都メカニズムに関するパラグアイの指定国家機関であるパラグアイ環境庁との間で、同国のクリーン開発メカニズム関連プロジェクト推進に係る業務協力協定を締結した。(IL)
11・1	ブラジル	三井物産はブラジルでガス配給事業を手掛けるガスパート社(リオデジャネイロ)を米エネルギー投資会社のグローバル社(デラウェア州)から買収したと発表した。買収額は2億5000万ドル。ブラジル国営石油会社のペトロブラスから調達した天然ガスをバイア州など7州で産業向けに販売する。(NE)

11・2	ハイチ	日本政府はハイチ政府に対して、国連児童基金計画を通じ総額2億300万円の無償資金協力を行なうことを決定し、このための書簡の交換が二石昌人在ハイチ臨時代理大使とアドリアーノ・ゴンザレス＝レガラル在ハイチ・ユニセフ代表との間で行なわれた。この援助により、ハイチにおける予防接種実施体制の強化が図られ、乳幼児および妊産婦に対するワクチン接種を通じて感染症対策の強化が期待される。(IL)
11・3	ペルー	在日ペルー総領事館のエクトル・マタヤナ総領事は記者会見し、来年4月の大統領選に立候補を表明しているフジモリ元大統領について、「議会の公職追放決議や憲法裁判所の規定により立候補する資格が無い」と述べた。フジモリ氏が大統領選で同氏の支持母体となる政治同盟の結成に必要な署名の確認手続きを総領事館で行なったことを受け、ペルー政府の立場を改めて表明した。(AH)
11・6	ペルー チリ	ペルーのフジモリ元大統領が日本を出国し、チリのサンティアゴに到着した。プライベート機でメキシコを経由して午後3時ごろサンティアゴの空港に到着し、直後に市内のホテルに入った。チリ警察は7日未明、フジモリ氏の身柄を拘束したが、拘束の理由や容疑などは明らかにしていない。(AH)
11・7	ペルー チリ	チリで拘束されているペルーのフジモリ元大統領について、在チリ大使館の小川大使が同国のウォルケル外相に対し、同大統領が法律に基づき公正な扱いを受けられるよう要請した。これに対し、ペルーのワイスマン副大統領は8日、ペルー・チリ2ヵ国間の問題に対する干渉であると反発し、マウルトゥア外相も石田・在ペルー大使をペルー外務省に呼び抗議した模様。(NE)
11・7	メキシコ	いすゞ自動車はメキシコで小型トラックの「いすゞエルフ」を発売したと発表した。2005年7月に三菱商事と共同で設立したいすゞメキシコ(メキシコ市)が、日本から完成車を輸入し現地で販売する。販売拠点は当面はメキシコ市、モンテレイ市、グアダハラハラ市の3ヵ所。(NS)
11・8	チリ	11月10日から13日まで予定されていたチリのウォルケル外相の来日が中止されたことが、在日チリ大使館により発表された。同国入りしたフジモリ元大統領の問題に対処しなければならなくなったため。(NE)
11・9	ペルー チリ	チリの日本大使館の柴崎二郎参事官らは、同国で身柄を拘束されているフジモリ元ペルー大統領と接見した。(AE)
11・10	ブラジル	ホンダはブラジルの四輪車工場の年産能力を2008年までに現在の8割増の10万台に引き上げると発表した。設備投資額は約120億円。新興市場国「BRICs」の一角であるブラジルは、四輪車市場が年率1割のペースで拡大しており、需要増に対応する。(NK)
11・10	ペルー チリ	ペルー外務省はチリで身柄を拘束されたフジモリ元大統領に在サンティアゴ日本大使館職員が面会したことに抗議し、ルイス・マキャベロ駐日大使を帰国させると発表した。事実上の大使召還と見られる。(AE)

11・11	ペルー	在日ペルー大使館のバルトラ公使は「日本との外交関係を1ランク落とすことになるだろう」と述べた。駐日大使は当面空席となり、同公使が臨時の代理大使に就く見通し。(NE)
11・11	ペルー メキシコ チリ	メキシコのデルベス外相は、ペルーのフジモリ元大統領がメキシコ経由でチリに向かった事実を日本が知らせなかったことについて、日本政府に説明を求めたことを明らかにした。(NE)
11・13	チリ ペルー	チリのプシオ官房長官は同国で拘束されているフジモリ元ペルー大統領の政治活動を禁止する方針を現地メディアに伝えた。フジモリ氏の支持者も対象にしたと見られる。「政治活動」の内容は不明だが、「サンティアゴをペルー政治の発信地とはさせない」(ウォーケル外相)というチリ政府の意向を反映したものとみられる。(AH)
11・16	ブラジル ベネズエラ	帝国石油はベネズエラの未開発鉱区をブラジルのペトロブラスと共同で落札したと発表した。落札額は約22億円で、帝石の権益は50%。(NS)
11・17	ペルー	ペルーのトレド大統領が韓国・釜山で開催されるアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議の期間中に小泉純一郎首相との会談を申し入れたものの、日本政府が拒否していたことが分かった。(NE)
11・18	チリ	小泉純一郎首相はチリのラゴス大統領と会談し、自由貿易協定を核とする経済連携協定の交渉を始めることに合意した。また、両首脳ともフジモリ元大統領の問題には触れなかった。(NK)
11・18	ペルー	小泉純一郎首相はAPEC首脳会議開幕前にペルーのトレド大統領と短時間、立ち話をした。両首脳ともフジモリ氏の問題を切り離し両国関係を推進することで一致した。(NK)
11・22	ペルー	ペルーのフジモリ元大統領について、同国司法当局は元大統領が管理する日本国内の銀行口座について、週内に情報開示を求める考えを明らかにした。同大統領が日本で5年間にわたり事実上の亡命生活を送っていた際の資金状況をめぐり、ペルー国内で実態解明を求める声が高まっていることを踏まえた措置。(NK)
11・30	チリ	独立法人の石油天然ガス・金属鉱物資源機構は、アルゼンチンとチリで実施中の銅の探鉱の権利を、銅事業で国内最大手のパンパシフィック・カッパー(東京)に譲渡すると発表した。譲渡額は非公開。(NS)
11・30	ペルー	広島県安芸区の小学一年生の女儿が殺害された事件で、広島県海田署は殺人と死体遺棄容疑で日系3世ペルー人のピサロ・ヤギ・ファン・カルロス容疑者を逮捕した。(NE)
12・8	ペルー	広島県安芸区の小1女児殺害事件で、県警捜査本部は殺人と死体遺棄の疑いで逮捕したファン・カルロス・ピサロ・ヤギ容疑者(30)について、本名がホセ・マヌエル・トーレス・ヤケで、年齢も33歳であることを確認したと発表した。(AH)

12・12	アルゼンチン	ホンダはアルゼンチンで二輪車の生産を始めると発表した。約100万ドルを投資し生産設備を設置、2006年半ばから稼働させる。年産能力は1万5000台。(NK)
12・12	ブラジル	アンドレ・マッソー・マイア・アマード新駐日ブラジル大使が、天皇陛下に信任状を捧呈した。(IL)
12・16	コロンビア	国際協力銀行は、コロンビア政府が発行する私募円建外債(サムライ債)への保証供与に係る諸契約をコロンビア政府およびみずほコーポレート銀行との間で調印した。本債券は総額225億円の私募円建外債であり、国際協力銀行はその元本全額および利息の一部を保証する。(IL)
12・18	ブラジル	サッカーの6大陸のクラブ王者が競うFIFA(国際サッカー連盟)クラブ世界選手権トヨタカップ決勝が横浜国際総合競技場で行なわれ、南米王者のサンパウロ(ブラジル)が、欧州王者のリバプール(イングランド)を1-0で下し、初代クラブ世界一の座に就いた。(YU)
12・19	ブラジル	ブラジルのペトロブラスは、サトウキビから精製したバイオエタノールを日本に輸出するため、日本アルコール販売(東京)と折半出資の新会社を設立すると発表した。新会社はバイオエタノールに関するペトロブラスの日本の総代理店になり、温暖化ガスを削減するクリーン開発メカニズム事業も手掛ける。(NK)
12・20	ブラジル	サッカーJリーグの年間表彰式が行なわれ、最優秀選手賞には得点王にも輝きガンバ大阪の初優勝に貢献したブラジル人FWアラウージョが選ばれた。(AH)
12・22	ブラジル	サッカーJ1からJ2へ降格する東京ヴェルディは、チームの全盛期を支えたOBで今期、柏のコーチを務めたラモス瑠偉氏が監督に就任すると発表した。(AH)
12・26	パラグアイ	日本政府はパラグアイ政府に対し、イグアス水力発電所建設計画のため214億200万円を限度とする円借款を供与することとし、このための書簡の交換が高橋利弘駐パラグアイ大使とラチド外務大臣との間で行なわれた。(IL)
12・30	ブラジル	サッカーJ1の鹿島は、先の世界クラブ選手権を制したサンパウロのパウロ・アウトゥオリ監督が来期から新監督に就任することが決定したと発表した。(NK)

以上の記事は日経テレコンおよび当研究所のラテンアメリカ関係の新聞の切り抜きから選んだものである。日付は現地時間に従う。各新聞・雑誌の略号は次の通りである。

新聞名	朝刊	夕刊
日本経済	NK	NE
日本産業	NS	
朝日	AH	AE
読売	YU	YE

雑誌名  
ラテン・アメリカ時報 IL

《 資 料 》

日本・ラテンアメリカ関係日誌－2006年－

月 日	国名	記事
1・3	ブラジル	国際サッカー統計連盟は、世界の主要国内リーグを対象とした05年の得点ランキングを発表し、Jリーグ1部でガンバ大阪の初優勝に貢献したブラジル人FWアラウージョ選手が33得点でトップに輝いた。(AE)
1・6	ブラジル	三井物産は在日日系ブラジル人子女向けに、日本語や母国語のポルトガル語の学習教材を制作することを明らかにした。東京外大や、日系ブラジル人が多い地域の小中学校教師らと協力し、2007年3月までに完成させる。(YU)
1・11	ペルー	ペルー北部のワカ・パルティエダ遺跡で、紀元前750年ごろの神殿跡から高さ約2.8メートルに達する巨大なジャガーのレリーフが出土したと報道された。発掘調査を行った日本学術振興会の芝田幸一郎特別研究員によると、「動物を表現した古代アンデス文明のレリーフとしては最大」という。(YU)
1・12	ブラジル	Jリーグ2部仙台は、ブラジル人のジョエル・サンタナ氏(57)の新監督就任を発表した。同氏はリオデジャネイロのフラメンゴ、フルミネンセ、バスコ・ダ・ガマ、ポタフォゴの4強全てを州選手権優勝に導いた唯一の監督で、バスコ時代の2000年にはブラジル全国選手権と南米クラブカップのメルコスル杯も制した。(NK)
1・13	グアテマラ	ニプロはグアテマラ市に販売拠点を開いたと報じられた。子会社の米ニプロメディカルコーポレーション(フロリダ州)の支店として開設、人工透析器など医療機器を販売する。(NS)
1・13	メキシコ	日産自動車はメキシコで生産した小型車の欧州向け輸出を検討している事を明らかにした。メキシコが欧州連合(EU)と自由貿易協定を結んでいる利点を生かし、労働コストや品質面で競争力の高いメキシコ工場を、欧州や中南米の輸出拠点と位置づける。(NK)
1・13	メキシコ	富士重工は住友商事と組みメキシコ市場に本格進出する方針を固めたと報道された。昨年4月に日本とメキシコの自由貿易協定が発効したことを受け、日本と米国から完成車を輸出する予定。(NK)
1・19	中南米	NTTコミュニケーションズは、スペイン最大の国際通信会社であるテレフォニカ・インターナショナル・ホールセール・サービスと、データ通信サービスで協力する契約を結んだと発表した。中南米での協力先としてシェアの大きいテレフォニカを加える事で、現地に進出する日系企業を本格的に支援できるようになる。(NS)
1・20	メキシコ	トヨタ自動車は3700万ドルを投じてメキシコ工場を増強すると発表した。完了後の2007年にはピックアップトラック「タコマ」の年間生産能力が現在より2万台増え5万台となる。(NK)

1・25	メキシコ	富士重工業はメキシコでスバル車の販売を始めると発表した。現地の自動車販売会社と販売網の開設について合意し、契約を交わした。3年以内に年2000台の販売を目指す。輸入業務は住友商事が担当する。(NS)
1・30	メキシコ	TOTOはメキシコに衛生陶器の新工場を建設すると発表した。投資額は約43億円で、月産能力は4万個。2008年1月に本格稼働の予定で、事業が拡大している米国での出荷量を増やす。(NS)
2・7	メキシコ	三菱重工業はメキシコ電力公社から、エネルギーを有効活用できる超臨界圧の石炭火力発電所の建設を受注したと発表した。運転開始は2010年の予定で、受注額は700億円前後と見られる。建設予定地は太平洋岸グレロ州のペタカルコ地区。出力70万キロワットと同国最大級となる。(NK)
2・8	ブラジル	被爆者支援法に基づく健康管理手当の未払い分を支給しないのは違法として、ブラジル在住の被爆者3人が広島県に計290万円の支給を求めた訴訟で、広島高裁は「行政側の時効主張は権利の乱用に当たり許されない」として、支給を認めなかった1審判決を取り消し、請求全額の支給を命じる原告逆転勝訴の判決を言い渡した。(NE)
2・9	ブラジル	JFEスチールは鉄鋼製品の成分調整に使う合金鉄のブラジルでの合弁生産会社を子会社化する。合弁相手であるブラジル資源大手、リオドセの保有株49%を全株取得し、出資比率を74.5%に高めて子会社化することで、合金鉄の安定調達につなげる。(NS)
2・17	パラグアイ	外務省人事。飯野建郎太平洋漁業機関担当大使を駐パラグアイ大使に任命。(NE)
2・23	チリ	日本とチリ両政府は、両国間の自由貿易協定を核とする経済連携協定の締結に向けた第1回交渉を都内で開いた。チリは南米で初の対象国で、日本はチリへの主力輸出品である自動車にかかる関税の引き下げ、チリはサクなど農林水産物の輸出拡大を目指している。(NK)
3・1	メキシコ	九州電力は三菱商事と共同出資で展開しているメキシコの発電所事業の出資比率を従来の3割から5割に引き上げると発表した。7割出資していた三菱商事から持分を取得折半出資にする。(NS)
3・4	コロンビア	世界ボクシング協会(WBA)ミニマム級タイトルマッチが後樂園ホールであり、王者の新井田豊が、挑戦者で同級8位のロナルド・バレラ(コロンビア)を3-0の判定で下し、4度目の防衛に成功。同級の日本人最多防衛記録を更新した。(YU)
3・10	チリ	自民党の中川秀直政調会長は、チリ大統領就任式に出席するため政府特使としてサンティアゴ入りし、ミチェル・バチェレ新大統領と会談した。(YE)
3・13	メキシコ	プラスチック部品製造のムネカタ(福島市)はメキシコのグループ会社で薄型テレビの外枠部品を増産すると報じられた。2006年度中に約17億円を投じて新設備を導入、月産能力を現在に比べ約5割引き上げる。日本の家電メーカーは北米向けに薄型テレビ増産に向けメキシコで部品調達を強化しており、これに対応して同社は現地工場を拡大する。(NS)

3・15	メキシコ	皇太子殿下はメキシコで開かれる第4回「世界水フォーラム」出席などのため政府専用機で羽田空港を出発。メキシコでフォーラム出席のほか遺跡などを視察され、帰途にカナダのバンクーバーを訪問し21日に帰国した。(NE)
3・16	中南米	政府は中南米諸国との資源・エネルギー戦略に関する次官級政策協議を4月から開始する方針を決めた。中南米では近年左派政権が相次いで誕生し、天然資源の国家管理を強化する動きが出ているため、早期の確保対策が必要と判断した。(YE)
3・20	キューバ	野球の国・地域別対抗戦、ワールド・ベースボール・クラシックは、米カリフォルニア州サンディエゴで決勝があり、王貞治監督(ソフトバンク)率いる日本チームが10-6でキューバを破り、初代世界一の座に輝いた。(AE)
3・22	ブラジル	Jパワー(電源開発)が計画を進めていた、ブラジルで温暖化ガスを削減して排出権を獲得する事業が、国連機関の理事会で承認を得たと報道された。サンパウロ市にある廃棄物処理場で発生するメタンガスを回収、燃焼させ、二酸化炭素換算で282万トンの排出権を得る予定。(NS)
3・22	メキシコ	同和鉱業はメキシコの亜鉛鉱山の生産能力を倍増、年内にも年間生産量を10万トンに引き上げると報じられた。亜鉛は自動車用鋼板の表面処理に不可欠な金属で、自動車生産の好調を受け日本の鉄鋼メーカーの需要が増えていることに対応する。(NS)
3・30	エルサルバドル	サッカーのキリンチャレンジカップが大分市の九石ドームで行われ、日本代表が1-0でエクアドル代表を下した。2006年に入ってから日本の親善試合の戦績は3勝1敗1分。(NK)
3・31	ブラジル	国際協力銀行(JBIC)などは、三井海洋開発などによるブラジルでの海底油田開発プロジェクト向けに2億1000万ドルの協調融資契約を結んだ。JBICにとっては同国で初の将来の事業収益を担保にしたプロジェクトファイナンスとなる。(NK)
4・4	ペルー	三井金属はペルーで新たな亜鉛鉱山の操業を開始したと報じられた。アンデス山系に位置するパルカ鉱山で、亜鉛地金換算で年間1万6000トンの生産を見込む。(NS)
4・6	ブラジル	ブラジルのフェルナンド・アダッジ教育大臣が来日し、小坂憲次文部科学大臣と会談した。アダッジ教育相は、日本に88校あるブラジル人学校のうち、32校だったブラジル政府認可校を50に増やした事を明らかにし、日本で教員養成の拠点を設ける考えを示すと共に、日本側にブラジル人学校を教育機関として公的に認可し、支援するよう求めた。(YU)
4・6	ペルー	ペルーのフジモリ元大統領を支援してきた東京都内のホテル経営者、片岡都美さんが、元大統領との婚姻届を関係者を通じて都内の区役所に提出した。(AE)

4・7	メキシコ	日本貿易振興機構(ジェトロ)は、2005年4月に発効した日本とメキシコの自由貿易協定に関して、両国間の輸出入が共に発効前に比べて約2割増えたとの調査結果をまとめた。米国経由の日墨間貿易も含めた両国の輸入統計で比べたところ、2005年4月～12月の日本からの輸出は、前年同期に比べ22%増の104億4700万ドル、メキシコからの輸入は19%増の19億100万ドルだった。(NK)
4・11	チリ	NTTは鉱山採掘の作業効率を高める制御システムなどの開発・販売会社として、チリ国営で世界最大の銅生産会社であるコデルコ社と、現地合弁会社MiCoMoを設立したと発表した。(NS)
4・13	ブラジル	中川昭一農相は、来日中のブラジルのアモリン外相と会談し、世界貿易機関の多角的通商交渉(ドーハ・ラウンド)について意見交換した。(NK)
4・14	ブラジル	竹中平蔵総務相は閣議後の記者会見で、ブラジルが日本方式の地上デジタル放送の規格を導入する事を条件とした両国間の技術協力で合意した事を明らかにした。ブラジルからの技術者の研修受け入れや、規格導入時に日本が持つ特許の使用料を免除する事などが柱。(NE)
4・20	ブラジル	川崎重工はブラジルの航空機メーカー、エンブラエルとの共同生産体制を見直すと発表した。100席級旅客機の主翼全体を生産する契約だったが、一部の部品の生産をエンブラエルに移管して負担を減らす。移管に伴う費用負担などで、2006年3月期に158億円の特別損失を計上する。(NS)
4・20	ペルー	ペルーのナスカ台地で、山形大学の坂井正人助教授(文化人類学)らの研究グループが新たに100以上の地上絵を発見した。今回発見された場所は、これまでに動植物の絵が多数見つかった地域から10キロほど南で、調査が進んでいなかった地域だった。(AH)
5・5	ブラジル	日信工業はブラジル工場で二輪車用ブレーキの生産を拡大する。マナウスのブラジル工場に10億円を投じ、生産能力を1割増強する。主要取引先であるホンダの生産増産にあわせ、生産体制を整備するもの。(NS)
5・23	ブラジル	ジューススタンドを展開するフルッタフルッタ(東京)は、コンビニエンスストアなどでアマゾン原産の果物「アサイー」のチルド飲料の販売を開始した。フルッタフルッタは、ブラジルのパラ州の日系移民が運営する農協で加工した果物の冷凍ピューレの独占輸入代理店の権利を持ち、アセロラやグアバ、カカオなど10種類を扱っている。(NS)
5・26	ブラジル	東洋エンジニアリングはブラジル国営石油会社ペトロbrasから、同国の製油所近代化プロジェクトを受注したと報道された。受注額は約500億円で2009年に完成の予定。同国で産出される金属分の多い重質油を分解し、硫黄分を取り除き良質の軽油やガソリンなどとして国内外で販売できるように設備を拡充する。(NK)
6・1	メキシコ	アーレスティは、6月中にメキシコに生産子会社を設立すると発表した。日産自動車や日産系の変速機メーカーのジヤトコなどにエンジン部品やミッションケースなどの製品を供給する。(NS)

6・7	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国に移住した日本人らが「募集時の約束と異なる悪条件の土地を与えられ、困窮生活を余儀なくされた」として、国に計約32億円の損害賠償を求めた訴訟で、東京地裁は当時の国の対応は違法だと指摘したものの、賠償請求権が消滅している事を理由に請求を棄却する判決を言い渡した。(AE)
6・9	ドミニカ共和国	小泉純一郎首相は、ドミニカ共和国への移住者訴訟で国の責任を認めた7日の判決を受け、救済策を検討するよう外務省などに指示を出した。(AE)
6・13	中南米	日産自動車はメキシコやペルー、ジャマイカなど中南米・カリブ海諸国で投入する新型車5種を発表した。日産は新車種投入により、2006年の同地域での新車販売台数が前年比8%増の9万台になると見込んでいる。(NS)
6・16	ブラジル	麻生太郎外相はブラジル人容疑者に殺害された被害者の遺族らと外務省で面会した。外相は、ブラジル人容疑者の国外逃亡が急増している事を踏まえ、ブラジルとの間で犯罪人引き渡し条約の締結を目指す考えを表明した。(YU)
6・19	ペルー	ペルー中部のシクラス遺跡を調査していた天野博物館の阪根博・学芸主任と藤澤正視・筑波技術大教授の研究グループが、発見した約4800年前の神殿と見られる石造建築の遺構の本格的な調査を開始した。同遺構は米大陸最古級の可能性がある。(AH)
6・22	ブラジル	サッカーのワールドカップドイツ大会で、日本は前回大会優勝のブラジルとの1次リーグ最終戦に臨み、1-4で完敗、日本は1勝もできずに1次リーグF組最下位に終わり、決勝トーナメント進出を逃した。(NE)
6・22	ブラジル	ブラジル政府は地上デジタル放送の規格で日本方式を採用する事を決定し、ブラジリアの日本大使館を通じて日本政府に通知した。日本方式が海外で採用されるのは初めて。(NE)
6・22	ブラジル	サッカーのJリーグ1部磐田は、成績不振で辞任した山本昌邦監督の後任に、ブラジル人のアジウソン氏が内定したと発表した。(NK)
6・22	ブラジル	国際石油開発帝石ホールディングスや双日、米シェブロンなどで構成する企業連合は、ブラジルで開発中の油田に総額24億ドルを投じ、商業生産への移行を決めたと報じられた。生産量は日産10万バレルと日本の原油輸入量の2%程度で、生産開始は2009年4月の見込み。(NK)
6・29	ブラジル	サッカー日本代表を退任するジーコ監督は、ブラジルに帰国するため日本を離れた。(AE)
6・29	ブラジル	ブラジル訪問中の竹中平蔵総務相は、ブラジルの地上デジタル放送に日本方式の企画を採用することで同国政府と正式に合意し、文書に調印した。両国は今後、デジタル放送をめぐる人材育成や技術開発で協力する。ブラジルの日本方式採用で、他のメルコスル加盟国などでも日本方式が広がる可能性が高まった。(AH)

6・30	ブラジル	金融庁はブラジル銀行東京支店とその出張所に出していた業務の一部停止処分を30日付で解除したと発表した。同行は2004年、不法就労者の海外送金を手掛ける無許可の「地下銀行」との取引が明らかになったため、金融庁から業務停止命令を受けていた。(NK)
7・4	ペルー	広島市で昨年11月、下校途中の小学生が殺害された事件で、殺人と強制わいせつ致死などに問われていたペルー人、ホセ・マヌエル・トレス・ヤギ被告の判決公判が広島地裁で開かれ、同被告に無期懲役が言い渡された。(NE)
7・8	メキシコ	美術家岡本太郎の幻の遺作といわれ、作成されたメキシコで発見された巨大壁画「明日の神話」の修復が終わり、東京の日本テレビで一般公開された。(AE)
7・13	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国への日本人移住者が日本政府に損害賠償を請求した訴訟で、原告団は首都サントドミンゴで協議を行い、東京高裁への控訴取り下げを条件とする政府の和解提案を受け入れる事を最終決定した。(NE)
7・14	チリ	日本とチリ両政府は外務省で10日から開いていた自由貿易協定を含む経済連携協定交渉の第3回会合を終えた。貿易関税をめぐる日本側は自動車、チリ側は農産品を中心に撤廃・引き下げを要求した。(NK)
7・14	ペルー	広島市で昨年11月、下校途中の小学生が殺害された事件で、広島地検は死刑を求刑したペルー人のホセ・マヌエル・トレス・ヤギ被告を無期懲役とした広島地裁判決を「量刑不当」として、広島高裁に控訴した。(NK)
7・21	ドミニカ共和国	小泉純一郎首相は、国策で移住したドミニカ共和国で困窮生活を強いられた日本人移民に対し、直接謝罪の意を表明した。上限200万円とする特別一時金の給付も決定。移住者側はこうした対応を受け、国への控訴を取り下げた。(NK)
7・22	ブラジル	ルラ大統領は、第2次世界大戦中に接收されたサンパウロ州サントスの旧日本語学校を、地元の日本人会に返還することを命じる大統領令に署名した。150万人に上る日系社会が2008年に移民100周年を向かえるため、日本とブラジルの友好関係を推進するのが狙い。(YU)
7・25	ブラジル	丸紅とシチズン時計は、ブラジルにシチズン製工作機械を扱う販売会社を設立すると発表した。自動車や医療機器などの生産が拡大しているブラジルなど南米市場の取り込みを狙って、営業やサービスを強化する。(NS)
8・1	ブラジル	リヤカーを引きながら世界各地を歩いて旅をする冒険家、永瀬忠志さんがアマゾン約900キロの旅に出発した。ブラジル・マナウスからポルトベリヨまでを1ヵ月半かけて南下する予定。(NE)
8・2	ブラジル	三井住友銀行はブラジル銀行と温暖化ガスの排出権取引ビジネスで提携し、排出権の購入仲介に乗り出すと報道された。邦銀が排出権取引に関してブラジルの銀行と組むのは初めて。同行はブラジルでの環境改善事業を発掘し、排出権購入を希望する日本企業に紹介する。(NK)

8・2	ベネズエラ	世界ボクシング協会(WBA)ライトフライ級王座決定戦が横浜アリーナであり、同級2位の亀田興毅が同級1位のフアン・ランダエタ(ベネズエラ)を2-1の判定で下し、世界初挑戦で王座を獲得した。亀田は19歳8ヵ月で世界王座奪取に成功、日本ボクシング史上第3位の若さで3人目の10代チャンピオンとなった。(YU)
8・4	チリ	ブリヂストンはチリのタイヤ工場を年末までに閉鎖すると発表した。同工場は1988年に買収した旧ファイアストンの所有工場。生産設備の老朽化で需要が高まる高性能タイヤの生産が難しく、採算が悪化したため閉鎖を決定した。(NS)
8・4	ブラジル	味の素はサンパウロ州で飼料用アミノ酸の新工場を稼動した。投資額は約95億円。ブラジルでの生産能力は年約6万トン増え約13万トンとなる。北米、中国、欧州などへの輸出拠点とする。(NK)
8・5	ベネズエラ	世界ボクシング協会(WBA)ライトフライ級王座決定戦で亀田興毅選手に判定負けしたフアン・ランダエタ選手を激励する日本からのメールが、在ベネズエラ日本大使館に殺到。5日午前0時時点で2000通を超え、同大使館は「届いたメッセージは帰国したランダエタ選手に届けたい」とする告知をホームページに掲載した。(YU)
8・8	アルゼンチン	本田はアルゼンチン・ブエノスアイレス州に建設した二輪車工場の開所式を行ったと報じられた。同国の2005年の二輪車販売台数は前年のほぼ3倍に達し、本田のシェアは22%とされる。(NS)
8・15	キューバ	第3回世界大学野球選手権はキューバのサンホセで3位決定戦が行われ、日本はキューバに3-9で破れ4位に終わった。(NE)
8・15	ブラジル	Jリーグ1部のFC東京は、成績不振のためブラジル人のガーロ監督を解任し、同クラブのU-18(18歳以下)監督を務めてきた倉又寿雄氏が新監督に就任した。(NK)
8・18	ベネズエラ	国際石油開発帝石ホールディングスの傘下の帝国石油は、ベネズエラで保有する鉱区で天然ガスの生産量を2008年までに1.5倍に拡大すると報じられた。ベネズエラ国内の需要増に合わせて段階的に生産量を増やす。同鉱区は3月にベネズエラ国営石油会社との合弁事業に移行することで合意した。(NS)
8・30	メキシコ	シャープはメキシコに液晶テレビの組み立て拠点を開設すると報じられた。パネルに電子部品などを取り付けてテレビモジュール(半製品)にするラインを新設し、液晶テレビ需要の拡大する北米市場に迅速に商品を生産できる体制を整える。(NK)
9・4	トリニダード・トバゴ	東洋エンジニアリングは、トリニダード・トバゴの化学大手、メタノール・ホールディングスが同国で建設する化学肥料プラントの設計業務などを受注したと発表した。天然ガスを原料に尿素や硝酸アンモニウムなどを生産する。受注金額は約30億と見られ、2009年に完成する予定。(NS)

9・7	コロンビア	警視庁捜査3課は、自称コロンビア国籍の無職ルイス・ヒルベルト・オルティス・ロハス容疑者を窃盗と住居侵入の疑いで逮捕したと発表した。同容疑者は今年5月、偽造旅券で入国。調べに対し「仲間2～3人と空き巣を繰り返し、首都圏を中心に約100件やった」と供述している。(YU)
9・8	ペルー	東京都豊島区のマンションで今年3月、ホスト派遣業の男性を殺害し、現金などを奪って放火したとして、強盗殺人などの罪に問われた日系ペルー人のチネン・ソリス・ケンジ・ロベルト被告の判決が東京地裁であり、検察の求刑通り無期懲役が言い渡された。(YU)
9・12	ベリーズ バハマ ジャマイカ	外務省人事。小畑正比呂コタキナバル総領事を、駐ジャマイカ兼バハマ兼ベリーズ大使に任命。(NE)
9・15	ブラジル	ブラジル国営石油会社ペトロブラスによる南西石油(沖縄県西原町)の買収計画が明らかになったと報じられた。(NK)
9・20	エクアドル	厚生労働省は、三井物産と三菱商事が輸入したエクアドル産カカオ豆から基準値を超える残留農薬が検出されたとして、食品衛生法に基づき、輸入業者に各検疫所での全品検査を受けるよう命令を出した。(NK)
9・20	メキシコ	外務省は日本とメキシコの自由貿易協定を柱とする経済連携協定で、日本が低関税枠で輸入する牛肉、鶏肉、オレンジの関税率を発表した。21日に両国で正式に決定し、来年4月から適用する。(YU)
9・22	チリ	政府は、日本とチリ両政府が自由貿易協定を含む経済連携協定締結で大筋合意したと正式に発表した。日本からチリへの輸出額の99.8%の関税が撤廃され、自動車や電子部品などの輸出に弾みがつく。日本がチリから輸入するワインやサケ・マスは段階的に関税を撤廃し、輸入額の90.5%で関税は無税になる。(NE)
9・25	コロンビア	東京都渋谷区の都立代々木公園で米国人男性が刺殺された事件で、警視庁代々木署特捜本部は、殺人の疑いで前駐日コロンビア大使の長男、アンドレス・グティエレス・ロマノ容疑者の逮捕状を取ると共に、同容疑者が居住していた渋谷区内の前大使宅を家宅捜索した。同容疑者は事件直後に出国しており、国際刑事警察機構を通じて国際手配する。(NE)
9・26	ボリビア	住友商事は南米ボリビアで2007年から生産を始める大規模な亜鉛、銀、鉛鉱山の権益を35%取得すると発表した。全権益を保有する米国の鉱山企業から将来の出来高払い分も含めて420億円程度で買い取る。(NS)
9・27	ブラジル	ブラジルの国営会社ペトロブラスは、日本の投資家向けに総額350億円の円建て外債(サムライ債)を発行。国際協力銀行が元本と金利の一部の支払いを保証し、野村証券と三菱UFJ証券が共同主幹事を務める。(NK)

9・28	コロンビア ブラジル	東京都渋谷区の都立代々木公園で米国人男性が刺殺された事件にからみ、警視庁代々木署特捜本部は、大麻を隠し持っていた前駐日コロンビア大使の二男で英会話講師、フアン・エステバン・グティエレス・ロマノ容疑者と、同居していたブラジル国籍の女性の2人を、大麻取締法違反の現行犯で逮捕した。(NE)
9・28	メキシコ	自動車用ロックシステム大手のアルファは、メキシコに自動車用ドアハンドルの新工場を建設する。日産自動車の現地生産拡大や、北米の日産やゼネラル・モーターズからの受注増に対応する。(NK)
10・5	ブラジル	Jリーグ1部広島は、知人男性を殴ったとして傷害の疑いで逮捕、書類送検されたMFマーティス・ジョベルト・アラウジョ(登録名ベツ)を解雇したと発表した。(NK)
10・5	メキシコ	子どもたちが仕事を疑似体験できるテーマパーク「キッズニア東京」が東京・江東区にオープンした。同施設は、メキシコで1999年に誕生した人気テーマパークの日本版。(YU)
10・13	チリ	丸紅はチリの水道会社を約45億円で買収すると報じられた。1990年代に民営化された事業で、川から取水して各家庭や事業所に配水する上水道から下水道までを手掛ける。丸紅が上下水道を一貫して扱うのは初めて。(NK)
10・16	キューバ	外務省人事。高松明前内閣府遺棄化学兵器処理担当室長を駐キューバ大使に任命。(NE)
10・19	ブラジル	上司への暴言を理由に解雇されたのは不当と、愛知県豊橋市の日系ブラジル人男性が人材派遣会社に地位保全などを求めている仮処分申請で、名古屋地裁は「『ばかやろう』と言っただけで解雇するのは酷」と、解雇無効の決定を出した。(YU)
10・20	ブラジル	日産自動車とスズキがブラジルで共同生産を検討している事が明らかになった。日産が2001年から現地生産を開始した生産拠点で、スズキブランドの乗用車を受託生産すると見られる。(NK)
10・20	南米	アシックスは南米でスポーツ用品の販売を拡大すると報じられた。年内にブラジルに販売会社を設立し、同国やアルゼンチンなど南米各地でシューズやウエアを販売する。2009年度に05年度実績の約4倍の売上高を目指す。(NK)
10・24	エルサルバドル	天皇、皇后両陛下は、来日中のエルサルバドルのサカ大統領夫妻と、皇居・宮殿で会見した。(AH)
10・24	ブラジル	ホンダ系自動車部品メーカーの日信工業は、ブラジルに四輪車向けブレーキ部品工場を建設すると発表した。2008年2月に稼働させ、ブラジルのホンダ工場向けに出荷する。投資額は11億円。(NK)
10・25	ブラジル	ホンダ系部品メーカーのユタカ技研は、ブラジルに新工場を設立すると発表した。ホンダの海外生産の拡大に伴い、四輪車用の排気系部品や二輪車用ブレーキディスクを生産する。(NS)

10・30	パラグアイ チリ	秋篠宮殿下は、日本人の移住開始から70周年を迎えたパラグアイを訪問するため成田空港を出発した。途中チリなどにも立ち寄り、11月7日に帰国。(NE)
10・30	メキシコ	大日本塗料は稼働を停止していたメキシコ工場を近く再開すると報じられた。5月に火災で工場建屋が全焼したため、日本から代替供給しながら復旧作業を進めていた。生産品目は自動車部品向けプラスチック塗料で、生産能力は火災前と同じ月100トン。(NK)
11・6	ブラジル	新日本製鉄は、ブラジルの鉄鋼大手ウジミナスへの出資を正式発表した。発行済み株式の1.7%を取得する。株式取得費用は100億円前後の見通し。(NK)
11・6	ブラジル	丸紅は6日から8日まで、航空会社やメーカー関係者らを招き、ブラジルの旅客機メーカー、エンブラエルの航空機の体験搭乗会を開いた。丸紅は2009年の羽田空港拡張に伴う需要増をにらみ、代理店となっているエンブラエル製旅客機の売込みを強める。(NS)
11・6	ブラジル	兼松は年内にもブラジル・サンパウロに現地法人を設立すると報じられた。主に現地の自動車部品メーカーに日本から輸出したギアなどの構造部品を販売する。(NS)
11・7	パナマ	世界ボクシング協会(WBA)ミニマム級暫定王座決定戦が大阪国際会議場であり、同級5位の高山勝成が同級1位のカルロス・メロ(パナマ)に3-0の負傷判定で勝った。高山は05年に獲得した世界ボクシング評議会(WBC)同級王座に続く2団体制覇。(AH)
11・8	チリ	ニチロは、チリのサケ養殖事業者、パタゴニア・サーモン・ファーム社(プエルトモン)の株式15%を600万ドルで取得すると発表した。世界的な魚食ブームでサケやマグロなど人気魚種の奪い合いが広がっており、養殖事業者に資本参加することで安定供給先を確保する。(NS)
11・13	メキシコ	世界ボクシング評議会(WBC)バンタム級王者の長谷川穂積と、同ミニマム級王者のイーグル京和のダブル世界戦が東京・日本武道館であった。イーグルは同級4位のロレンソ・トレホ(メキシコ)に3-0の判定で競り勝った。長谷川も同級1位のヘナロ・ガルシア(メキシコ)に3-0で判定勝ちして、ともに3度目の防衛を成し遂げた。(AH)
11・14	ドミニカ共和国	ドミニカ移民訴訟の和解を受けて超党派で作成したドミニカ移住者特別一時金支給法が成立した。移住先で過酷な生活を強いられた移住者に、1人あたり最高200万円を支給する内容。(NE)
11・17	チリ	安倍晋三首相は、ベトナム・ハノイ市内のホテルでチリのバチェレ大統領と会談し、日本とチリの自由貿易協定を含む経済連携協定の署名に向けた作業を加速する事で合意した。(NK)
11・18	メキシコ	アエロメヒコ航空は成田―ティファナーメキシコ市路線を開設した。メキシコの航空会社による日本への定期直行便の乗り入れは初めて。直行便就航で、増加傾向にある日本人渡航者の取り込みを狙う。(NS)

11・29	ペルー	ホンダはペルー北部のイキトス市に二輪車工場を建設すると発表した。投資額は180万ドルで、年産能力は2万5000台。12月に着工し、2007年後半に稼働させる予定。(NK)
12・2	メキシコ	メキシコを訪問中の中川秀直自民党幹事長は、前日に就任式を行ったカルデロン新大統領を表敬訪問し、安倍首相の親書を手渡した。(AH)
12・2	メキシコ	世界ボクシング協会(WBA)スーパーフライ級タイトル戦が大阪府立体育館であり、同級王者の名城信男が、同級13位のエドゥアルド・ガルシア(メキシコ)を3-0の判定で下し、初防衛に成功した。(YU)
12・5	ペルー	国際協力銀行はペルー政府と総額59億7200万円の円借款契約を結んだと発表した。ペルー向けの円借款は同国の財政状況改善などを受けた措置で、6年ぶりとなる。(NK)
12・15	メキシコ	メキシコ市内のアパートで日本人留学生の20代女性が死亡しているのが見つかった。警察は殺人容疑で、通報者で現場にいた交際相手のメキシコ人男性を逮捕した。(NK)
12・18	ブラジル	Jパワー(電源開発)は、ブラジルで建設支援した小規模水力発電所が温暖化ガス削減事業として国連の機関に承認されたと発表した。同事業は日本とブラジル政府から承認されており、排出権の発行が可能になる。Jパワーは2010年までに二酸化炭素換算で8万トンを購入する予定。(NS)
12・20	メキシコ	タチエスはメキシコ工場で自動車用シートを増産すると報じられた。2008年度までに、アグアスカリエンテス州にある工場の生産能力を現在より8割引き上げる。加えて設計など開発力の強化も行い、メキシコ工場の機能を大幅に強化する。日産自動車やホンダが現地生産を拡大しているのに対応する狙いだ。(NS)
12・21	ブラジル	新日本製鉄は、ブラジルの鉄鋼最大手ウジミナスを持ち分法適用会社にしたと発表した。既に11月にはウジミナス本体の株式1.7%を取得し、直接・間接合わせた新日鉄の出資比率は12.7%で単独で筆頭株主となり、ウジミナスの経営権を事実上握る形になった。新日鉄が海外の鉄鋼大手を持ち分法適用会社にするのは初めて。(NK)
12・25	ブラジル	静岡県焼津市のアパートでブラジル人母子3人が殺害された事件で、焼津署は母親の交際相手のブラジル人男性を長男への殺人容疑で指名手配すると共に国際刑事警察機構を通じて国際手配した。容疑者は19日に成田空港から出国しており、ブラジルに帰国したと見られる。(NK)
12・26	ブラジル	新日本製鉄など鉄鋼大手5社とブラジルの資源大手リオドセが進めていた2007年度の鉄鉱石価格交渉が、9.5%の値上げで決着した。鉄鉱石値上げは5年連続、4年連続で過去最高値を更新する。(NK)

12・26	ブラジル	ブラジル・サンパウロの検察当局は、1999年に静岡県浜松市で女子高生がひき逃げされ死亡した事件について、日本政府の要請を受け、ブラジルに逃げ帰った容疑者を国内法に基づき刑事訴追する代理処罰の手続きを進めていることを明らかにした。日本政府の要請でブラジル当局が「代理処罰」を行うのは初めて。(YE)
12・28	ブラジル	三井海洋開発は、ブラジルの国営石油会社ペトロブラス向けの海上プラントの受注内示を受けたと発表した。三井海洋開発が建設し、同社などが出資する事業会社がペトロブラスに貸し出す。貸出価格は1000億円超で、三井海洋開発の建造受注分はうち300億～400億円とみられる。(NK)
12・29	コスタリカ	サッカーのJリーグ1部FC東京は、ワールドカップドイツ大会で2得点した元コスタリカ代表FWパウロ・ワンチョペを獲得したと発表した。(NK)
12・29	ブラジル	岐阜県内の人材派遣会社2社が、労働基準法で雇用が禁止されている15歳以下の日系ブラジル人の子ども12人を工場で働かせたとして、岐阜労働基準監督署から同法違反で是正勧告を受けていた事が分かった。(NK)

以上の記事は日経テレコンおよび当研究所のラテンアメリカ関係の新聞の切り抜きから選んだものである。日付は現地時間に従う。各新聞・雑誌の略号は次の通りである。

<u>新聞名</u>	<u>朝刊</u>	<u>夕刊</u>
日本経済	NK	NE
日本産業	NS	
朝日	AH	AE
読売	YU	YE

雑誌名

ラテン・アメリカ時報 IL

《 資 料 》

日本・ラテンアメリカ関係日誌－２００７年－

月 日	国名	記事
1・3	メキシコ	世界ボクシング評議会スーパーフライ級タイトルマッチが東京・有明コロシアムで行われ、同級2位の川嶋勝重は、チャンピオンのクリスチャン・ミハレスに10回TKOで敗れ、王座返り咲きはならなかった。(NK)
1・6	ブラジル	サッカーJ1の鹿島は、来季の新監督としてブラジル人のオズワルド・オリベイラ氏との契約に合意したと発表した。オリベイラ氏は、2000年にコリンチャンス(ブラジル)を率いて世界クラブ選手権で優勝したほか、多くの名門クラブで指揮を執った経験を持っている。(YU)
1・16	コロンビア	Jパワー(電源開発)はコロンビアで建設を支援した水力発電所が国連機関から温暖化ガスの削減事業として登録を承認されたと発表した。コロンビア政府と日本政府からの承認は得ており、排出権の発行が可能になる。Jパワーは中南米で12の排出権関連の事業に関与しており、国連の承認は4件目となる。(NS)
1・17	チリ	テルモはチリの医療機器輸入販売会社「サリメド」(サンティアゴ)を買収し、テルモグループの完全子会社にする と発表した。買収額は非公開だが、5億円程度とみられる。サリメドは1980年の設立以来、テルモの専業代理店として医療機器を販売してきた。(NS)
1・18	チリ	チリ政府と商工団体は、日本のクールビズを見習いネクタイとジャケットを着用しないことで省エネに励もうと国民に呼びかけることを決めた。製造業振興会のフィリップ会長は「日本ではエネルギー消費量と二酸化炭素排出量の削減を果たした」と説明した。(AH)
1・18	ブラジル	1999年7月に静岡県浜松市で女子高生がひき逃げされ死亡した事件で、ブラジルのサンパウロ州検察庁は事件後ブラジルに帰国した日系ブラジル人のヒガキ・ミルトン・ノボル容疑者を業務上過失致死と救護義務違反の罪で起訴した。日本側からの要請を受けた措置で、代理処罰に絡み日本で犯罪に関与したブラジル人が起訴されるのは初めて。(NE)
2・2	メキシコ	旭硝子は北米地域における自動車用ガラス事業の効率化を狙い、メキシコで自動車用ガラスを生産・販売していた現地法人AGCオートモーティブ・メキシコ(ハリスコ州)を2月1日付で解散したと発表した。同現地法人は年間約40万台分の自動車用ガラスを生産していたが、生産を米国内の拠点に集約した方が生産コストを削減できると判断し、業務は2006年末までに停止していた。(NS)

2・6	ブラジル	ブラジルに移住した被爆者3人(1人は死亡)が広島県を相手に、被爆者援護法に基づく健康管理手当での未受給分約290万円の支払いを求めた訴訟の上告判決が6日あった。県が地方自治法上の時効を主張して支払わなかったことの是非が争われたが、最高裁第三小法廷は在外被爆者に手当を支払わないという国の通達は違法と述べ、県の上告を棄却、県に請求全額の支払いを命じた二審判決が確定した。(AE)
2・10	パナマ	みずほコーポレート銀行がパナマ政府が2015年完成を目処に計画中のパナマ運河拡張事業の財務アドバイザーを獲得したと報じられた。総事業費52億5000万ドルと世界最大規模の事業で、みずほは資金調達の戦略作りを担当する。(NK)
2・15	ブラジル	松下電工はブラジルにある照明用部品の輸入販売子会社、フォスロ・シュワーベを3月までに清算すると発表した。欧州で生産した照明部品である安定器を南米向けに輸入販売していたが、2002年以降、価格競争力が低下したため。(NS)
2・16	エクアドル	エクアドルのグアモテ付近で列車が線路脇から倒れてきた電話線の支柱が直撃し、同列車に乗車していた日本人観光客2名が死亡、1名が軽症を負った。(NE)
2・20	エクアドル	リコーはエクアドルで進めている植林プロジェクトが国連のクリーン開発メカニズム(CDM)理事会で温暖化ガス排出削減の新たな方法として承認されたと発表した。日本企業が単独で投資する植林事業では初めてという。年内に植林を始め、排出権を獲得するCDM事業として登録するためエクアドルと日本の両政府や国連に対する手続きを進める。(NS)
2・22	ベネズエラ	丸紅と三井物産は、ベネズエラ国営石油会社(PDVSA)と15年間の長期調達契約を締結した。両社で設立した金融子会社を通じPDVSAへ総額35億ドルを「前払い融資」の形で支払い、その返済として原油と石油製品を受け取る。調達先を多様化し中東への依存度を低めたい政府も、国際協力銀行を通じた公的融資で支援する。(NK)
2・23	コロンビア	首都ボゴタの北東約80キロの山中で、乗客乗員計43人を乗せた長距離バスが数100メートルしたの谷に転落し、少なくとも11人が死亡した。在コロンビア日本大使館は、死者の中に日本人男性が含まれていることを明らかにした。(NE)
2・28	ベネズエラ	トヨタ自動車はベネズエラの組立工場の生産ラインを3月1日から18日まで停止することを明らかにした。組み立て部品の輸出入決済に必要な外貨取得申請の手続きが遅れ、日本やブラジルからの部品の輸入ができないため。(NE)
3・5	ブラジル	国際協力銀行(JBIC)はブラジル国営石油会社ペトロブラスと、バイオ燃料事業を金融面で支援する覚書を締結した。融資対象は、ペトロブラスが日本の商社や電力、石油元売会社などと共同で対日輸出用に作るバイオ燃料の生産・販売事業エタノール工場や貯蔵タンクだけでなく、港湾や輸送パイプラインなども含む。(NK)

3・6	エクアドル ホンジュラス	外務省人事。前川征弘スペイン大使館参事官を駐エクアドル大使に任命。塩崎修駐ホーチミン総領事を駐ホンジュラス大使に任命。(NE)
3・10	メキシコ	サッカーの女子ワールドカップ(W杯)予選大陸間プレーオフ第1戦が東京・国立競技場で行われ、日本はメキシコに2-0で先勝し5大会連続のW杯出場に前進した。(NK)
3・17	メキシコ	サッカーの女子ワールドカップ(W杯)予選大陸間プレーオフがメキシコで行われ、日本は1-2でメキシコに敗れたが、2戦の合計得点3-2で9月の本大会出場を決めた。日本の女子W杯出場は5大会連続。(NK)
3・19	ベネズエラ	世界ボクシング協会フライ級タイトルマッチが東京・後樂園ホールで行われ、挑戦者で同級3位の坂田健史(協栄)が、前日の計量で体重超過したため王座を失ったロレンソ・パラ(ベネズエラ)に3回14秒、TKO勝ちして新王者となった。(NK)
3・20	ドミニカ国 ニカラグア	外務省人事。齋藤真一氏を駐ニカラグア大使に任命。四宮信隆氏をドミニカ大使に任命。
3・22	メキシコ	日立製作所はハードディスク駆動装置(HDD)事業の生産拠点再編策を発表し、HDD製作子会社、日立グローバルストレージテクノロジーズが保有するメキシコ・グアダハラ工場を閉鎖し約4500人の人員を削減することを明らかにした。(NE)
3・24	メキシコ	世界ボクシング協会ライトフライ級前王者で、フライ級に階級を上げた同級3位の亀田興毅(協栄)が東京・両国国技館で世界ボクシング評議会同級12位のエベラルド・モラレス(メキシコ)とノンタイトル10回戦を行い、3-0で判定勝ちした。(NK)
3・26	ブラジル	国際協力銀行は国際石油開発や双日などがブラジルで実施する油田開発事業への約1億7000万ドルの融資契約に調印。生産開始は2009年の予定で、生産量は最大で日産10万バレル。日本企業によるブラジルでの原油生産は初めて。(NK)
3・26	メキシコ	みずほコーポレート銀行は、メキシコ大手銀行のバノルテ・フィナンシャルグループと業務提携することで基本合意したと報じられた。現地通貨ペソの調達やプロジェクトファイナンス、送金業務など広汎な分野で提携する。(NK)
3・27	チリ	日本、チリの両政府は、自動車などの即時関税撤廃などを盛り込んだ経済連携協定(EPA)に署名した。日本によるEPAの締結・発効は5カ国目で、南米諸国とは初めて。(AH)
3・27	ホンジュラス	ニプロは4月上旬までにホンジュラスの首都テグシガルパに支店を開設すると発表した。経済成長に伴い医療の水準が高まり機器の需要が増えると判断し、代理店を通じた販売から支店販売に切り替え医療機器の売り上げ拡大につなげる。(NS)

4・1	パラグアイ	パラグアイの国家警察は、首都アスンシオンから東に約180キロのカアグアスで、世界基督教統一神霊協会(統一教会)関係の土地管理会社社長、太田洪量氏とその秘書の日本人2人を含む4人が何者かに誘拐されたことを明らかにした。(NE)
4・6	ウルグアイ	外務省人事。竹元正美前宮内庁式部副長を駐ウルグアイ大使に任命。(NE)
4・10	メキシコ	三菱重工業は、メキシコの工場増設など風力発電事業の強化策を発表した。08年までにメキシコ北部の合弁会社で第2工場を建設する。投資額は30億円、従業員は2倍の400人に増やし、主に米国市場向けに長さが30-45メートル程度の大型翼を年1800枚生産する。(NK)
4・13	メキシコ	日野自動車が新たにメキシコ市場に参入することが報じられた。北米地域における販売強化の一環で、メキシコでは既に販売会社を設立しており、2007年度中に商品供給を開始する予定。米国と同じように、三井物産と組んで販売網を整えるという。(NS)
4・16	ブラジル	警察庁とブラジル連邦警察は、国外逃亡容疑者の追跡など両国の捜査協力に関する警察当局間の「意図表明文書」に署名した。日本で罪を犯した後、本国に逃亡した日系ブラジル人の代理処罰が行われるなど、ブラジル人が関係する犯罪が増加しているため。(NK)
4・17	ブラジル	財務相は日本ブラジル交流年・日本人ブラジル移住100周年を記念する硬貨を発行すると発表した。記念硬貨はニッケル黄銅貨(額面500円)で、08年3月ごろに発行の予定。(NE)
4・19	カリブ地域	丸紅は米電力会社のミラント社からカリブ海周辺地域の電力事業を約5億8000万ドルで買収すると発表した。取得分の発電能力は150万キロワットで、地元電力会社へ売却するほか、バハマ島やジャマイカでは約60万世帯に直接電力を供給する。(NK)
4・20	チリ	外務省人事。林渉駐コロンビア大使を駐チリ大使に任命。(NE)
4・20	パラグアイ	パラグアイで世界基督教統一神霊協会(統一教会)関係の土地管理会社社長、太田洪量氏らが4月1日に誘拐された事件で、太田社長とパラグアイ人男女2人が解放された。3人は全員無事。パラグアイ国家警察によると、解放に際し、身代金13万8000ドルが支払われたという。(NK)
4・24	アルゼンチン	電通はアルゼンチンに現地法人「電通アルゼンチン」(ブエノスアイレス)を設立すると発表した。これまで同国ではブラジルの広告会社DPZ(サンパウロ)の現地法人を通じて広告事業を展開してきた。経済成長に伴い日系企業の広告依頼が急増しているのに対応する。(NS)
4・24	ブラジル	ブラジルを訪問中の国際協力機構の緒方貞子理事長は、首都ブラジリアでアモリン外相と会談した。外相は、アフリカや南米諸国など途上国向け技術援助を、日本とブラジルが共同でしよう提案した。緒方理事長は「具体的に何ができるか共に考えたい」と応じた。(NE)

5・2	ブラジル	三井物産はブラジルの鉄鉱石会社MBR(ミナスジェライス州)株の持ち分1.6%を1億1450万ドルで売却すると発表した。MBRはブラジル資源大手リオドセが直接、間接合わせ9割を出資する会社で、リオドセから少数株主への株買取要請があったため応じる。(NE)
5・3	ベネズエラ	世界ボクシング協会(WBA)スーパーフライ級タイトルマッチが東京・有明コロシアムで行われ、王者の名城信男(六島)は同級1位のアレクサンデル・ムニョス(ベネズエラ)に0-3の判定で敗れ、王座陥落した。同時に行われたWBAスーパーフェザー級タイトルマッチでは、同級2位の本望信人(角海老宝石)は王者エドウィン・バレロ(ベネズエラ)に8回TKOで敗れた。(NK)
5・8	ブラジル	日本郵船はブラジルの資源大手リオドセとの間で、2011年から20年間の鉄鉱石輸送の長期契約を結んだと発表した。世界最大規模の積載量30万トンの専用船を新造し、ブラジル-中国間で年4-5往復させる。資源大手との長期契約は国内海運業界で初めて。(NS)
5・18	メキシコ	みずほコーポレート銀行はメキシコ市にニューヨーク支店メキシコ出張所を21日付で開設すると発表した。同行としては初のメキシコ国内の営業拠点。(NK)
5・23	ブラジル	トヨタ自動車はサトウキビなどの植物からつくるバイオエタノールだけでも走行できるフレックス燃料車(FFV)を、トヨタとしては初めて、25日から発売すると発表した。(AH)
5・28	メキシコ	2007年ミス・ユニバース世界大会がメキシコ市で行われ、日本代表のバレエダンサー、森理世さんが優勝した。日本代表が優勝したのは、1959年の児島明子さん以来、48年ぶり2人目。(YE)
6・5	ブラジル	リオデジャネイロの日本総領事館4人が公務中に強盗に襲われ、乗車中の公用車や財布、デジタルカメラ、携帯電話などを奪われていたことが分かった。館員らにけがなどはなかった。(NE)
6・11	ブラジル	新日本製鉄は元副社長の平尾隆氏をグループ企業のブラジル鉄鋼大手ウジミナスに派遣すると発表した。平尾氏は7月1日付けで採鉱技術顧問に就任、新日鉄からの技術協力を統括する。(NS)
6・12	メキシコ	外務省人事。小野正昭科学技術協力担当大使を駐メキシコ大使に任命。(NE)
6・18	ブラジル	ブラジルの航空機メーカー、エンブラエルは日本航空に最大78人乗りの小型ジェット機「エンブラエル170」10機を納入する契約を結んだ。契約には同型機5機を追加納入するオプションも盛り込まれている。契約金額は15機合計で4億3500万ドル。日本航空が同社製ジェット機を導入するのは初めて。(NE)
6・19	ペルー	国民新党が夏の参院選にペルーのフジモリ元大統領の擁立を検討していることがわかった。亀井静香代表代行の秘書が、チリで自宅軟禁状態にあるフジモリ氏を訪ね、出馬を要請した。(YU)

6・21	ブラジル	三菱自動車はガソリンとエタノールどちらも燃料として使える「フレックス車」をブラジルで7月に発売すると発表した。多目的スポーツ車「バジェロ」をベースに、混合燃料でも効率的に燃焼するようエンジンを改良した。三菱自がフレックス車を発売するのは初めて。(NK)
6・25	パナマ	国際協力銀行(JBIC)はパナマ湾の水質浄化事業に初のプロジェクト円借款を供与することでパナマ政府と合意し調印した。総事業費は約325億円で、JBICは約193億円を上限に供与する。(NK)
6・26	ガイアナ	安倍首相はガイアナのジャグデオ大統領と首相官邸で会談し、地球温暖化対策に関する共同声明を発表した。世界の温室効果ガス排出量を2050年までに現状から半減する日本の基本戦略をガイアナが支持するほか、ポスト京都議定書の枠組み構築に積極的に参加することなどを盛り込んだ。(YU)
6・28	ペルー	民主党の鳩山幹事長は国会内で記者団に対し、国民新党が参院比例選にフジモリ元ペルー大統領を擁立したことについて「わが党にも1度打診があり、断った経緯がある」と述べ、フジモリ氏側から民主党に出馬の打診があったことを明らかにした。(YU)
7・1	パナマ	世界ボクシング協会フライ級王座統一戦が東京・有明コロシアムで行われ、同級王者坂田健史(協栄)が3-0の判定で、暫定王者のロベルト・バスケス(パナマ)を破り、初防衛に成功した。(NK)
7・3	ベネズエラ	神戸製鋼所はベネズエラで製鉄プラントのリース契約を満了し、同国の国営ガイアナ開発公社(CVG)に引き渡したと発表した。引き渡したのはベネズエラ東部ボリバル州にあるミノルカ還元鉄プラント。遊休状態だったプラントを、1987年に神鋼がリース契約をして運営していた。(NS)
7・4	ペルー	ペルーのガルシア大統領は、アラン・ガルシア大統領が予定していた日本訪問を中止したことを明らかにした。日程調整がつかなかったのが理由という。(NE)
7・5	ペルー チリ	国民新党の亀井静香代表は外務省で麻生太郎外相と会談し、同党が参院選の比例代表候補として公認したフジモリ元ペルー大統領がチリから早期に出国できるよう要請した。(NE)
7・6	ブラジル	静岡保護観察所が、浜松市の日系ブラジル人男性を保護司として推薦することを法務省に打診したところ、「保護司の業務は公権力にあたり、外国人に委嘱することは困難」との見解を示され、推薦を断念していたことがわかった。(YE)
7・10	メキシコ	メキシコ中部ケタロ州にある国営石油会社PEMEXの天然ガスパイプラインが反政府武装組織に爆破され、天然ガスの供給が止まった影響で、日産自動車のアグアスカリエンテス工場は10日未明以降、操業を停止した。日産の工場は天然ガスを燃やして圧縮空気をつくり、車のねじを締めることなどに使用している。(NK)
7・13	メキシコ	世界ボクシング評議会スーパーフライ級タイトルマッチがメキシコのゴメスパランオで行われ、挑戦者の菊井徹平(花形)はチャンピオンのクリスチャン・ミハレス(メキシコ)に10回TKOで敗れ、王座奪還はならなかった。(NK)

7・17	メキシコ	日産自動車は小型商用車「キャブスター」(日本名アトラス)の新型車を夏以降、メキシコと台湾に投入すると発表した。同社はキャブスターを商用車分野におけるグローバル戦略車と位置付けており、メキシコ市場では8月から販売を開始する。(NK)
7・18	アルゼンチン	本田はアルゼンチンに四輪車工場を新設すると発表した。新工場の投資額や約1億ドルで、2009年度から小型乗用車を年3万台生産する計画。国内向けに供給するほか、南米各国に輸出する。(NE)
7・19	ブラジル	住友金属工業はフランス鉄鋼メーカーのバローレックとブラジルで合弁、運営する製鉄所の概要を発表した。合弁には住金と住友商事が44%、バローレックが56%を出資する。総投資額は2000億円。(NK)
7・23	ベネズエラ	ベネズエラの有力紙ナショナルに掲載されたインタビュー記事の中で松井靖夫駐ベネズエラ日本大使が「貧富の格差は、ベネズエラよりも日本の方がはるかに小さい」と指摘、日本人の方がチャベス大統領より社会主義的だと述べた。これに対してベネズエラ政府は24日、「受け入れがたい内政干渉だ」として抗議し、大使館側が釈明に追われている。(YU)
7・25	ブラジル	三井物産はブラジルにAV家電と事務機の販売会社を新設すると発表した。新会社は当面シャープ製品を専門に扱い、ブラジルで12月に放送開始予定の地上デジタル放送に対応する液晶テレビを主に販売する。(NS)
7・29	チリ	国民新党の参院比例代表候補のフジモリ元ペルー大統領は、落選確実の知らせを受け、軟禁下に置かれているチリ・サンティアゴ郊外の自宅で敗北宣言をした。(YE)
8・9	ブラジル	新日本製鉄は、傘下のブラジル鉄鋼大手ウジミナスが新製鉄所の建設を柱とする大幅拡張に乗り出すと発表した。ブラジルの既存製鉄所でも大型高炉を建設する。総投資額は1兆円にのぼり、新日鉄が技術面で前面協力する。(NK)
8・10	ベネズエラ	外務省人事。下荒地修二駐パナマ大使を駐ベネズエラ大使に任命。(NE)
8・10	メキシコ	ボーイズリーグの世界少年野球大会最終日はメキシコで決勝を行い、日本は6---4でベルデ(メキシコ)に勝って3連覇を達成した。14度目の優勝で、最多優勝記録も更新した。(AH)
8・16	ブラジル	王子製紙はブラジル製紙大手のボトランチンに感熱紙の技術供与を始めると発表した。ボトランチンの南米地域での販売実績に応じて、王子はライセンス料収入を得る。(NK)
8・17	メキシコ	メキシコを訪問中の麻生太郎外相はカルデロン大統領とメキシコ市内の大統領府で会談し、地球温暖化対策の新たな枠組み構築に向け、両国が緊密に協力していく方針で一致した。麻生外相はこの後、エスピノサ外相と会談。2005年に発行した経済連携協定を受け、両国の経済関係をさらに発展させていくほか、国連安全保障理事会改革に向けた連携も確認した。(NE)

8・17	メキシコ	麻生外相は午前中、メキシコ市内の大統領府でカルデロン大統領と会談し地球温暖化問題について意見交換をした。この後、外務省でエスピノサ外相と会談し、国連安全保障理事会の改革について語った。午後には日墨学院を視察し、日本史や世界史などの漫画セットを寄贈した。(YE)
8・21	ブラジル	麻生太郎外相はブラジルのアモリン外相と会談し、両国の犯人引き渡しなどを協議、司法問題に関する作業部会を新設することで合意した。(NE)
8・22	キューバ	ブラジル訪問中の麻生外相はブラジリア市内でキューバのペレス外相と会談した。麻生氏がカストロ国家評議会議長の病状を尋ねたのに対し、ペレス氏は「徐々に回復しているが、医者がついていなくてはならない状態にある」と説明した。(YE)
8・25	ブラジル	静岡県袋井市の海岸でブラジル国籍のコガ・アレサンドレ・シズオさんが行方不明になった。警察や消防などは水難事故とみて捜索している。コガさんは仲間と海岸でバーベキューをしていた。(AH)
8・28	アルゼンチン	日本政策投資銀行など33社が出資する日本温暖化ガス削減基金は、アルゼンチンのアントニオ・モラン風力発電プロジェクトから、約10万トンの温暖化ガス排出権を獲得する契約を結んだ。日本がアルゼンチンから排出権を購入するのは初めて。(NK)
8・28	アルゼンチン	日本郵船はアルゼンチンなどで海運代理店・物流事業を手掛けるマルチマーグループ(本社ブエノスアイレス)の株式60%を取得し、子会社にしたと発表した。同グループが南米3カ国に持つ営業網と陸上輸送網を活用し、南米発着の貨物の取り扱い拡大を目指す。(NS)
8・28	メキシコ	ヤクルト本社はメキシコで事業を拡大すると発表した。これまで現地で発売していた固形ヨーグルトの知名度を活かし、統一ブランドの新商品、飲むヨーグルトを9月から販売開始する。(NS)
8・29	南米	いすゞ自動車は米ゼネラル・モーターズ(GM)と南米地域に合弁の販売会社設立の検討を始めたと発表した。これまでGMの販社を通じてトラックを販売していたが、体制を切り替えて営業戦略や販売後のサービス体制をテコ入れする。(NS)
8・31	パナマ	北海道松前町沖で2006年12月。パナマ船籍の貨物船「アウトセーリング5」が座礁し、燃料油が流出した事故で、同船の中国籍の船長に対する海難審判の裁決が函館地方海難審判庁であった。裁決では、今後は気象条件に配慮して岸からの距離を十分とって航行するように同船長に勧告した。(AH)
9・3	ブラジル	航空宇宙研究開発機構の衛星「だいち」を使って、南米アマゾンの違法森林伐採の実態を監視する体制がスタートした。ブラジル政府の要請を受けたもので、犯行現場を押さえるため、撮影画像は10日以内にブラジルの研究機関に配信される。(YU)

9・4	メキシコ	外務省海外邦人安全課によると、メキシコ西部カリフォルニア半島の南部ラパス近くの海上で、日本人2人を乗せたボートが行方不明になった。メキシコ当局が捜索を行っている。当時、メキシコ西部にはハリケーン「ヘンリエット」が接近中で、現地の海も荒れていたという。(AH)
9・5	ブラジル	超硬工具大手のタンガロイ(川崎市)は切削工具大手のOSGがブラジルに持つ販売、生産子会社、OSGフェラメンタス・ド・プレシソン(サンパウロ州)に約2300万円出資したと発表した。OSGの子会社への増資後の出資比率は約1.1%。タンガロイは役員をひとり派遣する。(NS)
9・8	ブラジル	2008年の日伯交流100周年を前に、ブラジルの音楽や食に親しんでもらおうと、在日ブラジル商業会議所は8、9の両日、「ブラジルフェスティバル」を東京都渋谷区の代々木公園で開催した。(YU)
9・9	メキシコ	安倍晋三首相はシドニー市内のホテルでメキシコのカルデロン大統領と会談した。大統領は地球温暖化防止に関して、2050年までの世界の温暖化ガス半減を柱とする日本の提案への支持を表明。両首脳は今後幅広い分野で「戦略的パートナーシップ」の構築に向けて関係強化を目指す方針で合意した。(NE)
9・14	ブラジル	二輪車チェーン製造大手の大同工業は、ブラジルに製造・販売を担う子会社を設立すると発表した。来年に新工場の建設を始め、2009年1月に創業開始を予定している。投資総額は5年で15億円を見込む。(NS)
9・21	コスタリカ	外務省人事。山口英一駐ブラジル公使を駐コスタリカ大使に任命。(NE)
9・30	コロンビア	ゴルフのコカ・コーラ東海クラシック最終日で、通算2アンダーで2人の選手のプレーオフとなり、招待選手のカミロ・ビジェガス(コロンビア)が2ホール目でプロ4年目の藤島豊和を下し、日本ツアー初優勝を飾った。(YU)
10・2	エルサルバドル	外務省人事。加来至誠駐メルボルン総領事を駐エルサルバドル大使に任命。(NE)
10・6	ベネズエラ	米大リーグ復帰を目指す野茂英雄投手は、ベネズエラでウインターリーグに参加する事になったと、自身のホームページで明らかにした。所属するのはカラカス・ライオンズ。(NK)
10・12	アルゼンチン	ヤマハ発動機は2008年4月からアルゼンチンで二輪車の組み立てを始めると発表した。ブラジル子会社が出資しているヤマハ・モーター・アルヘンティナ(ブエノスアイレス州)の敷地に新たな建屋を設け、08年に6000台を生産する。同社の南米の二輪車工場はブラジル、コロンビアに次ぎ3カ所目。(NK)
10・13	ブラジル	双日がブラジルでサトウキビを原料とするバイオエタノール生産事業に進出すると報じられた。現地の石油化学グループが設立した事業会社の発行済み株式の33%を92億円で取得する予定。新会社は既存の農場、エタノール生産者の買収や新規開発などで2016年までに1100億円を投資し、年間約100万キロリットルの生産体制を目指す。(NK)

10・16	メキシコ	シャープはメキシコの液晶テレビ工場に約110億円を追加投資すると発表した。月産20万台の生産能力を、2009年度に月産40万台に倍増する。現地生産能力を強化し、液晶テレビの大需要地である北米市場の開拓を強化する。(NK)
11・2	ニカラグア	世界ボクシング協会フライ級1位の亀田興毅が、所属する協栄ジムでの12月からの練習再開を前にメキシコへ出発した。自主トレーニングに励み体作りをすると同時に、アマチュア試合に出場する三男の和毅を応援するなど精神的なリフレッシュも兼ねる。(NK)
11・7	ブラジル	三菱重工業は、ブラジルのブラジル電力公社から老朽化した原子力発電所の設備刷新に必要な大型部品を受注したと発表した。日本の原発メーカーがブラジル向けに原発部品を供給するのは初めて。(NS)
11・10	ブラジル	ブラジル国営石油会社ペトロブラスは、米エクソンモービル系の石油精製会社、南西石油(沖縄県)を買収すると発表した。エクソンモービル子会社の東燃ゼネラル石油が持つ87.5%の同社株式を来年3月に取得する。買収額は約55億円の見込み。(NK)
11・14	メキシコ	医療・介護用ベッド大手のパラマウントベッドはメキシコ厚生省から、現地代理店を通じて公的病院の医療用ベッドを受注したと報じられた。受注台数は同社としては過去最大の5500万台。売上高は明らかにしていないが、5～6億円とみられる。(NS)
11・18	ベネズエラ	米大リーグ復帰を目指し、ベネズエラのカラカス・ライオンズに所属してウインターリーグに参加している野茂英雄投手が、故障者リストに登録された。同投手のホームページによると、前日の練習中、左足に違和感を覚えたため、投球再開まで2週間程度の見込みだという。(NE)
11・22	メキシコ	ホンダはメキシコ工場で、同工場から米州各地に多目的スポーツ車(SUV)の出荷を始めることを明らかにした。米国向けの出荷を始めたほか、2008年初めにはブラジルやアルゼンチンにも供給する。(NK)
11・27	グアテマラ	グアテマラ政府は、元スペイン大使でスペイン語圏文化研究者の林屋永吉氏に、グアテマラ文化遺産国家勲章を授与し、都内で伝達式が開かれた。林屋氏は『ポポル・ヴフ』を翻訳するなど、マヤ文化の紹介に力を尽くしたことが評価された。(AH)
12・4	メキシコ	ブリヂストンはメキシコ市の工場を2008年度下期に閉鎖すると発表した。主にトラック・バス用バイアスタイヤを生産してきたが、需要減少や新興国勢との価格競争の激化によって採算が悪化していた。(NK)
12・8	ブラジル	群馬県高崎市の私立学芸館高校が、大泉町のブラジル人学校「日伯学園」(ブラジル政府認可)と提携、学園に通いながら日本の高校卒業資格を取得できる入学枠を2008年度から設けることがわかった。両校によると、日本の高校とブラジル人学校が協力して高卒資格を取得させる試みは全国初。(NE)

12 · 29	メキシコ	<p>ぺんてるがボールペンを一貫生産している米国工場の工程の大半を2008年春までにメキシコ・ティファナの新工場に移管すると報じられた。ウォルマート・ストアーズなどからの納入価格引下げ圧力が強まっているのに対応し、メキシコの安い人件費や政府の関税優遇措置を活用し、最終製品をメキシコから米に輸出する。(NK)</p>
---------	------	--

以上の記事は日経テレコンおよび当研究所のラテンアメリカ関係の新聞の切り抜きから選んだものである。日付は現地時間に従う。各新聞・雑誌の略号は次の通りである。

<u>新聞名</u>	<u>朝刊</u>	<u>夕刊</u>
日本経済	NK	NE
日本産業	NS	
朝日	AH	AE
読売	YU	YE

雑誌名

ラテン・アメリカ時報 IL

《資 料》

日本・ラテンアメリカ関係日誌－2008年－

月 日	国名	記事
1・4	メキシコ	ヤクルト本社が、メキシコで独自の乳酸菌を使った飲むヨーグルト「ソフル」を増産する計画が明らかとなった。メキシコ市郊外などの2工場の生産能力を順次拡大し、増強完了後には販売数量を現在の2.6倍の1日32万本にする。
1・8	ブラジル	現金約5万円入りのバッグをひったくったとして、熱田署(愛知県名古屋市)は、知立市の派遣社員カルドゾ・バンデルレイ・タカサキ容疑者(ブラジル国籍)と、額田郡の無職少年を窃盗の疑いで逮捕したと発表した。
1・10	ブラジル	同国リオデジャネイロのカーニバルに、2月3日、移住1世紀を祝って日本をテーマにした行列が出ると報道された。カーニバルで行進する「エスコーラ」と呼ばれるチームの1つ、「ポルトダベドラ」が日本を主題に採りあげたのだという。
1・10	アルゼンチン ブラジル	日本郵船は、南アフリカを経由してアジアと南米東岸を結ぶ定期コンテナ船サービスの輸送量を、4月下旬を目処に3割増やすと発表した。上海、香港、ダーバン(南アフリカ)、サントス(ブラジル)、ブエノスアイレスなどに寄港する。
1・11	ブラジル	皇太子殿下が「日本ブラジル交流年」名誉総裁に就任した。
1・13	ブラジル	新日本製鉄傘下のブラジル鉄鋼メーカー、ウジミナスが、同国内の鉄鉱石会社J・メンデスを買収する交渉に乗り出した。
1・15	ブラジル	静岡県焼津市で2006年12月に日系ブラジル人母子3人が殺害された事件で、ブラジル・サンパウロ州西部バストスの警察当局は、ネベス・エジルソン・ドニゼッチ被告の身柄を拘束した。サンパウロ州検察庁は2007年12月10日、身柄未拘束のまま殺人罪で起訴していた。
1・16	グアテマラ	同国首都の一角にある売春街で働く女性たちを主人公にしたドキュメンタリー映画、「線路と娼婦とサッカーボール」が公開されている。低報酬で仕事をし、常に暴力と病気による死にさらされている彼女たちは、アマチュア女性リーグに参戦して存在を見せつけようとチームを結成する。
1・17	ブラジル	日本人のブラジル移住100年を記念し、同国政府は「日本ブラジル交流年」の式典をブラジリアで開催した。式典には、ルラ大統領、木村仁外務副大臣はじめ両国の政府、経済界、日系人団体の関係者約300人が出席した。
1・18	アルゼンチン ボリビア	外務省人事。石田仁宏ペルー大使を駐アルゼンチン大使に、田中和夫シアトル総領事をボリビア大使に任命。
1・18	ブラジル	落語家の春風亭栄枝さんが、同国各地で日系人に向けた落語会を計画していると報じられた。

1・21	ペリーズ	同国で活動する福井県出身の青年海外協力隊員からの呼びかけに応じて、福井県国際交流協会は、同国に縦笛41本を発送した。
1・23	パラグアイ	同国で2007年4月に現地在住の日本人の会社社長と女性秘書が誘拐され、身代金を支払って解放された事件で、主犯格とみられるブラジル人の男性ら5人が、パラグアイの当局に射殺された。
1・24	ペルー	フェアトレード製品のコーヒーの試飲会が、武蔵野市の成蹊大学で開かれた。学生や教職員が東ティモール、ネパール、ペルーで作られた3種類の豆を昔ながらのミルでひき、飲み比べを行った。
1・24	ブラジル	丸紅は2月から、日本の石油元売り各社が販売する「バイオガソリン」向けに、同国からサトウキビを原料とするバイオ燃料の輸入を始める。同国の石油化学メーカー、コペスルから調達し、2月に石油元売り各社でつくるバイオガソリン事業の共同組織向けに6500キロリットルを出荷する。
1・25	ブラジル	学校施設などに使っている建物の家賃を滞納しているとして、滋賀県湖南市の不動産管理会社が、ブラジル人学校を運営する「滋賀ラテン学園」と学園の代表に、建物の明け渡しなどを求めた訴訟があった。会社側の主張が認められ、建物の明け渡し、滞納分家賃と損害金の支払いを命じた。
1・28	ブラジル	岐阜県多治見市で2005年、警察官が拳銃を強奪された事件で、強盗致傷や銃刀法違反の罪に問われたブラジル国籍の兄弟、エグチ・ジョジュ・エジガー・デ・ソウザとエグチ・マウロ・デ・ソウザの両被告の判決公判が、岐阜地裁であった。両被告に、それぞれ懲役9年、罰金30万円が言い渡された。
1・30	ブラジル	トヨタ自動車の同国進出50周年を祝う式典が、サンパウロで開催された。
1・30	ブラジル	富山県警港湾地区特別捜査隊などは、愛知県豊橋市、運送会社役員フクシマ・ロザリーノ・ゴンカルビスとフクシマ・ミシェール・ビクトル・アラウジョの両容疑者(いずれもブラジル国籍)を、貨物自動車運送事業法違反容疑で逮捕した。
1・31	ブラジル	男性ファッション誌で活躍している同国生まれの青年が、銀座で個展を開いている。
2・1	ブラジル	長野県松本市で2003年7月に貸金業の男性が殺害された強盗殺人事件で、サンパウロ州警察当局は、日系ブラジル人のソナダ・ジュリアノ・エンリケ・デソウザ被告を拘束した。日本からの国外犯処罰の要請を受け、州地裁が強盗殺人罪で起訴していた。
2・6	メキシコ	TOTO(北九州市)が、メキシコ工場を本格稼働させる。同社は2006年に現地子会社を設立し、工場建設と試験生産を進めていた。米国での需要拡大を見込み、便器や洗面器など衛生陶器の生産能力を北米地域で約2倍に増強する。
2・8	ブラジル	地元住民とともに地域の安全に貢献しようと、ブラジル人による自警団「太陽」の出発式が、茨城県常総署で行われた。
2・10	ブラジル ペルー	外国人が人口の1割を占める岐阜県美濃加茂市で、日系ブラジル、ペルー人らと自治会長や市議らが合同会議を開き、交流法を話し合った。

2・18	ペルー	2007年8月に大地震に襲われたペルーで、とりわけ被害の大きかった地域に、埼玉県の救急車が2台寄贈されることになった。
2・21	ベネズエラ	プロ野球チームの阪神が、テスト生として春季キャンプに参加しているベネズエラ出身の2選手に育成枠での契約の意向を伝えた。
2・25	ブラジル	日系ブラジル人向け食料品製造販売業のアイ・ビー・フォックス(静岡県磐田市)は、グループ4社とともに東京地裁に民事再生手続きの開始を申し立てた。負債総額は5社で62億3990万円。
2・27	ブラジル	奈良県は、万葉集の研究や国際的な普及に業績があった人を顕彰する「NARA万葉世界賞」を創設し、第1回の受賞者がブラジルの女性研究者、サンパウロ大学元教授のジェニ・ワキサカさんに決まったと発表した。
2・28	ブラジル	三井海洋開発は、同国国営石油開発会社ペトロbrasから、大型タンカーを改造した浮体式海洋石油生産・貯蔵・積み出し設備(EPSO)と呼ばれる海上プラントの受注の内示を受けたと発表した。
3・1	ベネズエラ	世界ボクシング協会(WBA)ミニマム級タイトルマッチ12回戦が東京・後楽園ホールで行われ、王者の新井田豊が、挑戦者で同級13位ホセ・ルイス・バレラに6回KO勝ちし、国内ジム所属の世界王者で歴代単独4位となる7連続防衛を達成した。
3・4	メキシコ	ホンダは、独自開発の小型ジェット機「ホンダジェット」を、米国に加えカナダとメキシコでも販売すると発表した。
3・8	ブラジル	三重県四日市市にあるブラジル人学校「ニッケン・オブジェチーボ学校」を、県は3月中に「各種学校」として認可する。ブラジル人学校の認可は、全国でも4例目である。認可を受けると、財政面での優遇措置が期待できるほか、県が支給する私立外国人学校振興補助金の対象となる。
3・10	メキシコ	三井物産は、メキシコで液化天然ガス(LNG)の受け入れ基地の建設・運営事業を受注すると発表した。韓国企業2社と共同で設備を建設し、2011年半ばの操業開始を目指す。
3・11	ブラジル	三井物産は、ブラジル政府が計画する高速鉄道建設に幹事社として応札する方針を明らかにした。
3・14	ボリビア	外務省人事。辞職(ボリビア大使)白川光徳。
3・14	ブラジル	NHK名古屋放送局は、東海4県に暮らすブラジル人向けに、ラジオ第2放送で4月1日から毎日、ポルトガル語の生活情報番組を放送する。番組は「ラジオジャパンフォーカス」で、NHKの国際放送「ラジオ日本」が主に南米向けに放送している。
3・16	ブラジル	丸紅とオランダ穀物商社のアグレレンコ・グループが、大豆やヒマワリなど複数の原料に対応したバイオディーゼル生産をブラジルで事業化する。搾油から燃料精製までの一貫工場を建設する。

3・17	ペルー	福田首相は、ペルーのガルシア大統領と首相官邸で会談し、ペルーの上下水道整備事業などに対する新規の円借款約220億円を供与する考えを表明した。さらに、環境・気候変動問題への協力を強化する共同声明に署名した。
3・20	メキシコ	日本ガイシは2009年中を目処に、メキシコに約150億円を投じてディーゼル車の排ガス浄化用セラミック部材の新工場を建設する。米国で2010年に施行されるディーゼル車の排ガス規制「US10」をにらみ、生産体制を整える。
3・22	ブラジル	同国のコンテンポラリーダンスカンパニー2つが初来日することが報じられた。カエターノ・ベローゾらの音楽で踊る「グルーポ・コルポ」と、クラシックバレエ風の「デボラ・コルカー・カンパニー」で、4月と6月に公演を行う。
3・25	ブラジル	川崎重工業が丸紅と共同で、同国の鉄鋼大手コンパニー・シデルールジカ・ナシオナル(CSN)から発電設備を受注した。2009年5月の稼働を予定しているが、受注金額は明らかにしていない。
3・27	ブラジル	トヨタ自動車が、同国で生産する乗用車「カローラ(セダン)」を全面改良し、28日から販売する。
3・28	ブラジル	埼玉県は、ブラジル人学校などの外国人学校について、4月1日から「各種学校」の認可基準を緩めることを発表した。「各種学校」になるには、授業時間や教員数など一定基準を満たさなければならない。認可権限は都道府県知事にある。
4・2	ブラジル	静岡県浜松市のヤマハ発動機IMカンパニーで、ブラジル人を対象に119番通報の体験教室が開かれた。日本語教室を支援する浜松国際交流協会(HICE)が、実践的な日本語表現の学習のため、浜松市消防本部に協力を依頼した。
4・3	ブラジル	小型旅客機大手ブラジル・エンブラエル社の社長は、三菱重工による小型ジェット旅客機の開発に対する日本政府の支援に懸念を示した。「公的助成を受けて新型機を開発するのは世界貿易機関(WTO)のルールに抵触する可能性がある」と述べた。
4・4	ブラジル	福田首相の地元、群馬県高崎市と姉妹都市の提携を結んでいるブラジル・サントアンドレ市に、ブラジル移民100年を記念して、福田首相の碑が立つことになったと報じられた。
4・6	ブラジル	中国地方で初めてのブラジル人学校、「エスコーラ・モモタロウ・オカヤマ」が岡山県総社市に開校した。ブラジル国籍の3～12歳を対象に、ブラジルの教員免許をもった教員がポルトガル語で授業をする。
4・9	ブラジル ペルー	3月20日に静岡県沼津市足高のアパートの冷蔵庫からペルー人女性の遺体が見つかった事件で、沼津署は、ブラジル人の無職クラウジノ・ジオバニ・ミキオ容疑者を殺人の疑いで再逮捕した。
4・15	アルゼンチン ブラジル	日本からの移民100周年記念の一環として、両国生まれの日系人歌手が日本で公演を行う計画である。日系3世の南かなこ(ブラジル出身)と、日系2世の大城バネサ(アルゼンチン出身)で、ともに演歌界で活躍している。

4・18	アルゼンチン	廃線で職を失った鉄道員たちが、互いに通わせた心まで寸断されるさまを描くアルゼンチン映画、「今夜、列車は走る」が公開された。監督はニコラス・トゥオツツォ。
4・18	メキシコ	同国のギター男女デュオ、ロドリゴ・イ・ガブリエラが、デビュー盤「激情ギターラ！」をひっさげ来日した。2本のアコースティックギターが情熱的に絡み合っ生まれる旋律が日本でも人気を博している。
4・19	ブラジル	文化庁の海外古美術展が、初めてブラジルで開催されている。文化財を通じて外国で日本文化や歴史を理解してもらおうという趣旨で、江戸時代の名品を中心に陶磁器、漆工品などが紹介される。
4・20	ブラジル	静岡県磐田市は、市内の無認可ブラジル人学校に対し、市の体育施設利用料の減免を決めた。通常、自治体からの補助金などを受けるには、「各種学校」の認可が必要であるケースが多い。
4・24	ブラジル	新日本製鉄が同国のサッカーチーム「イパチングFC」とスポンサー契約すると報じられた。同チームは、新日鉄の持ち分法適用会社で現地鉄鋼大手のウジミナスが、基幹製鉄所をもつミナスジェライス州イパチング市に本拠を置く。
4・27	ブラジル	最初のブラジル移民船「笠戸丸」が神戸港を出港して100年となるのに合わせ、日本とブラジルの冒険家2人が、両国の海を水上バイクで航海する旅に同港から出発する。総距離は約6000キロメートルに及ぶ。
4・28	ペルー	東京都品川区で1月、タクシー運転手が三人組の男に襲われた事件で、警視庁は、ペルー国籍で住所不定、無職の男を強盗致傷の疑いで逮捕したと発表した。
4・28	メキシコ	同国北西部の米国国境に近い港町エンセナダで、地元在住のカトウ・ヒロシさんが銃撃され、死亡した。
4・30	ブラジル	在日ブラジル人子弟の教育水準を引き上げるため、ブラジル政府と大学が中心となり、日本政府や日本の大学が支援する教員養成プログラムが、2009年にスタートする見通しとなった。
5・2	ボリビア	同国で1日に、日本人観光客が巻き込まれた交通事故が発生し、日本人5人が死亡したとの情報が日本の外務省に入った。事故現場は、南西部の観光地ウユニ塩湖付近とみられる。
5・8	メキシコ	カシオ計算機が中南米市場での販売を強化する。メキシコの営業事務所を販売会社に格上げし、電卓・電子辞書などを拡販しつつ、中南米でのブランド力を高める。
5・8	コロンビア	いすゞ自動車は、コロンビアに商用車の販売会社を設けたと発表した。米ゼネラル・モーターズと合弁で、同国など南米3カ国で商用車事業を統括する。

5・10	ブラジル	日本政府は2008年度から、小中高教員のブラジル派遣制度を新設する。年間約10人ずつの規模で、派遣期間は2年間。同国の日系人社会での日本語や日本文化の維持に貢献する一方、滞在中にポルトガル語を習得し、派遣終了後には在日ブラジル人子弟の教育向上に役立てる効果が期待される。
5・12	ブラジル	国際協力銀行(JBIC)と独立行政法人の日本貿易保険が、同国資源大手のヴァーレ(リオドセ)に総額50億ドル(約5140億円)の信用供与枠を設定すると報じられた。
5・14	コロンビア メキシコ	ヤマハ発動機が中南米で二輪車の販売網を拡充する。両国で店舗改装を増やし大型の旗艦店を新設するほか、中小ディーラーとの契約数も3～4割ほど伸ばす。
5・19	アルゼンチン ブラジル	英国最高峰のバレエ団であるロイヤル・バレエ団が7月に来日することが報じられた。アルゼンチン出身とブラジル生まれのダンサーが「シルヴィア」のほとんどで主演する。
5・23	メキシコ	フマキラーが中南米で殺虫剤の直接販売に乗り出すことが明らかとなった。メキシコに子会社を設立し、夏を目処に代理店経由の販売から切り替え、将来の現地生産も検討する。
5・31	メキシコ	東洋水産の即席めん「マルちゃん」が、メキシコの即席めん市場で8割のシェアを誇っていると報じられた。
6・20	ブラジル	三井物産が、ブラジル国営石油会社ペトロブラスと超深海油田・ガス田の探鉱に使う特殊掘削船を共同で建造・保有すると発表した。両社は、バイオエタノール生産や米国でのオイルシェール(油分を含む岩石)開発を共同で計画するなど協力関係を深めている。
6・22	キューバ アルゼンチン	チェ・ゲバラの妻による『わが夫、チェ・ゲバラ、愛と革命の追憶』が紹介された。
6・24	ブラジル	三井住友銀行は国際協力銀行(JBIC)と共同で、同国サンパウロ州政府向けに総額882億円の協調融資をする。地下鉄や都市鉄道の施設整備、車両購入などの資金に充てる。
7・1	ブラジル	「島唄」で知られるザ・ブームの宮沢和史が、2006年に立ち上げたバンド「ガンガ・ズンバ」を率いて、ブラジルで公演する計画である。日本からの移民100周年の記念ライブで、クリチバやサンパウロなど4都市をまわる。
7・1	ブラジル	同国を訪問中の甘利明経済産業相は、首都ブラジリアで同国鉱業・エネルギー相と会談し、石油や鉄鋼石など資源分野で協力することで一致した。この一環として、独立行政法人の日本貿易保険(NEXI)と同国国営石油会社ペトロブラスが協定の覚書を締結した。
7・2	ブラジル	三井物産とブラジル国営石油会社ペトロブラスは2009年から、石油代替燃料のバイオエタノールをブラジルで合弁生産することで合意した。原料となるサトウキビ栽培から一貫して手掛ける。

7・3	ブラジル	東京電力が、同国国営石油会社ペトロbrasと交流協定を結んだことが正式に発表された。エネルギー・電力事業で情報交換や人材交流を推進する。バイオ燃料技術で先行するペトロbrasとの関係強化が、エネルギー安定調達につながるとの判断である。
7・4	グアテマラ メキシコ ニカラグア	7日から洞爺湖で開かれるG8サミットを意識して、先住民族の地位向上のメッセージを訴えた「先住民族サミット」が同日、閉幕した。ニカラグア、グアテマラ、メキシコからは、それぞれミスキート、マヤ、ナウアの人々が参加した。
7・7	ペルー	日本に住むペルー人向けに、無許可でペルーへの送金を請け負う「地下銀行」を営んだとして、銀行法違反などの罪に問われたペルー国籍の食品販売店員デンディエタ・エスピノサ・ウィリアム・スネイデル被告の判決公判が、大津地裁であり、有罪判決が下された。
7・10	コロンビア	みずほコーポレート銀行の斎藤宏頭取は、日本とコロンビアの関係強化に貢献したとして同国政府から「サン・カルロス勲章」を受けた。
7・15	ブラジル	トヨタ自動車は、同国での乗用車生産の第2工場を建設すると正式発表した。2011年から年間15万台の生産を計画しており、同社が新興国向けに開発を進める低価格の小型車「エントリー・ファミリー・カー」の生産を見込む。
7・17	ブラジル	大和証券グループ本社は、銀行や証券などを傘下に持つブラジルの大手金融グループ、バンコ・イタウと業務提携すると発表した。
7・19	コロンビア	東京・国立科学博物館で「金GOLD 黄金の国ジパングとエル・ドラード展」が開催されている。
7・25	アルゼンチン	北京五輪に出場するサッカーのアルゼンチン女子代表が、25～28日、新潟市内で合宿し、25日には市陸上競技場での練習を公開した。
7・28	ブラジル	横浜ゴムが2010年をめどに、ブラジルで、乗用車向けタイヤの生産を始める方針を明らかにしたとの報道があった。
8・4	メキシコ	日産自動車が北米での小型車生産へのシフトに向け、メキシコのクエルナバカ工場から3交代制を導入、小型車「ヴァーサ」を増産すると報じられた。
8・5	アルゼンチン	同国海軍の練習帆船「リベルタ号」が横浜港に入港した。アルゼンチンと日本が外交関係を樹立し、今年で110周年を迎えるのを記念する行事の一環。
8・6	メキシコ	ボクシングの亀田プロモーションは、亀田興毅が30日にメキシコ・モンテレイで、サルバドール・モンテスと12回戦をすることが正式に決まったと発表した。モンテスは、元メキシコフライ級王者で、9戦5勝4敗。
8・8	ブラジル	愛知県豊橋市の市長と教育長は、訪問先の同国パラナバイ市で、教育分野での友好提携を正式に結んだ。教員の相互派遣や授業内容の情報交換といった交流を図る。同市は人口(約8万人)のうちおよそ3%を日系人が占め、日本に出稼ぎに来る人が多い地として知られる。

8・8	メキシコ	日野自動車は、同国に中型トラックの組み立て工場を新設すると発表した。三井物産と共同出資で工場を運営する新会社を設け、2009年7月に稼働する。
8・15	ブラジル	新日本製鉄は、グループ会社のブラジル鉄鋼大手ウジミナスが同国で予定している鉄鋼所建設計画に資本参加する方針を明らかにした。
8・18	キューバ	独立行政法人・日本貿易保険は、国営大手のキューバ国立銀行から「輸入代金の支払いができなくなった」との通告を受けたことを明らかにした。原油と食糧価格の高騰で、資金繰りが急速に悪化したとみられる。
8・19	ブラジル	静岡県各地でブラジル人の水難事故が相次いでいることを受け、清水海上保安部はその防止対策として、「離岸流」対応法などを紹介するポルトガル語版DVDを作成した。
8・20	メキシコ	村田製作所は、電子部品的一种であるコンバーターを生産するメキシコ子会社を解散すると発表した。
8・21	ブラジル	スズキは、10月から同国で四輪車の販売に再参入すると発表した。現地資本の代理店契約を結び、多目的スポーツ車(SUV)などを輸出する。
8・22	ペルー	神奈川県横浜市金沢区長浜の市道交差点で、自転車で横断していたペルー国籍の会社員ワタナベ・レイエス・ジョージ・ヒロシさんが、トラックにはねられた。ワタナベさんは、全身を打ち、まもなく死亡した。
8・22	ブラジル	日産自動車は、同国で2009年から新興国向け戦略車「リヴィナ」シリーズの生産を開始すると発表した。同シリーズでは初めて植物原料のエタノールとガソリンを併用できるエンジンを搭載する。ルノーのブラジル工場で生産する。
8・29	ブラジル	同国ポピュラー音楽界の巨匠で、文化大臣も務めたジルベルト・ジルが、9月にコンサートを開くことが分かった。「日本ブラジル交流年」の一環で企画された特別イベントで、10年ぶりの来日となる。
9・4	ベネズエラ	日立プラントテクノロジーは、ベネズエラで水力発電設備などの据え付け工事を合計約80億円で連続受注したと発表した。
9・5	メキシコ	出光興産は、メキシコ向けに軽油の輸出を始めると発表した。メキシコの石油会社との間で、年20万キロリットルを販売する契約を結んだ。
9・11	中南米	ラテンアメリカの日本未公開作品などを紹介する映画祭、第5回スペイン・ラテンアメリカ映画祭が東京と大阪で始まった。また、10月10日からは表参道ヒルズでブラジル映画祭も開催される。
9・12	メキシコ	メキシコ人の歌手が日本語で歌うオペラ「夕鶴」の来日公演が、各地で開かれている。同国で活躍した演劇人、故佐野碩の願いを受けついで同国在住のバイオリニスト黒沼ユリ子が、企画と音楽総監督を務める。
9・19	ブラジル	住友商事は石油代替となるバイオエタノール事業に参入すると報じられた。同国で現地企業と合弁会社を設立し、2011年にも生産を開始する。また双日も現地の合弁会社の生産量を現在の15倍に引き上げる。

9・20	ベネズエラ	三菱商事、三井物産、伊藤忠商事がベネズエラで液化天然ガス(LNG)事業への参加を検討していることが明らかとなった。日本の主要なLNG調達先であるインドネシアが対日輸出削減を表明するなどエネルギー争奪が激しさを増すなか、調達先を多様化して安全確保を目指す。
9・21	ジャマイカ	日本陸連は、セイコー・スーパー大会(23日)の特別ゲストとして、北京五輪で世界記録を3つ更新したウサイン・ボルトが来日すると発表した。競技前のイベントのスターターなどとして参加する。
9・24	ブラジル	伊藤忠は、穀物メジャーの米ブンゲと共同で合弁会社を2社設立し、同国でガソリン代替燃料のバイオエタノール事業に参入すると発表した。まず、ブンゲが保有する同国のバイオエタノール生産会社に20%資本参加することで合意した。
9・26	ブラジル	サッカーの日本代表入りを目指し、2008年3月に日本国籍取得の意思を明らかにしたJ1川崎のブラジル人FWジュニーニョが、国籍取得を断念したことが分かった。ブラジルで世代別代表として試合に出た経歴があるため、国籍を取得しても日本代表として出場できない可能性があるという。
9・27	メキシコ	2007年に行われたボクシング世界戦の反則行為で1年間のライセンス停止処分を受けていた亀田大毅が11月に行う再起戦の相手が、メキシコ人選手のアンヘル・レサゴに決まった。
9・29	バハマ	塩釜港(宮城県塩釜市)に、バハマ船籍の客船「スピリット・オブ・オセアヌス」が寄港した。外国客船が同港に寄港するのは2年ぶりで、市民が和太鼓を演奏して歓迎した。
10・2	ブラジル メキシコ	ヤクルト本社は中南米地域で地方都市での飲料販売を本格化する。ブラジルでは内陸部などで販売網を拡充するほか、メキシコでも中規模都市の開拓を始める。同社は、日本と同様に「ヤクルトレディー」を活用した地域密着の販売手法が成功している。
10・9	ベリーズ	ヤクルト本社は、ベリーズで乳酸菌飲料「ヤクルト」の販売を、同国の自由貿易地域のスーパーなどの店頭で始めると発表した。
10・10	ブラジル	川崎重工は、2009年半ばまでに同国に二輪車の工場を建設すると発表した。それに先駆けて15日から現地法人を通じ、主力の中大型車の販売を始める。
10・15	メキシコ	三洋電機は、同国にある太陽電池の組み立て工場を建て替え、12月に生産能力を従来の2.5倍規模に整えると発表した。太陽電池の導入を推進する自治体が増えたことで需要が拡大している北米市場に対応するため、2008年度中のフル稼働を目指すという。
10・16	ブラジル	新日本製鉄など国内鉄鋼5社、伊藤忠商事、韓国鉄鋼最大手のポスコでつくる企業連合が、ブラジル鉄鉱石大手CSNが同国内に保有する鉄鉱石の鉱山子会社「ナミザ」に出資することで基本合意に達したことが明らかになった。
10・20	メキシコ	ブリヂストンは、同国でタイヤ補強材カーボンブラックの新工場が稼働したと発表した。北米や中南米のブリヂストングループのタイヤ工場に供給する。

10・23	南米	被爆者の健康相談のため10月に南米を訪れた広島県の派遣団が、県庁で帰国報告をした。ブラジル、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチン、ペルーで計85人の健康状態をチェックした。
10・29	キューバ	同国が対日輸入代金の支払いを延滞している問題で、独立行政法人・日本貿易保険とキューバ中央銀行は、未払い金計約250億円を4年以内に完済することで合意した。保険の新規引き受けは年内にも再開する。
10・30	コロンビア	戦前日本におけるプロレタリア演劇のリーダー、佐野碩(せき)が強い影響を与え生まれたという同国の劇団「テアトロ・ラ・カンデラリア」の日本公演実現にむけた「招請実行委員会」の活動が報じられた。
10・31	南米	商船三井は、アジアと南米東岸を結ぶ定期コンテナ航路で、シンガポールの海運会社パシフィック・インターナショナル・ライン(PIL)との連携を解消し、2009年1月から単独運航に移し輸送力を増強すると発表した。川崎汽船は、PILと新たに提携することで同航路のサービスを拡充すると発表した。
11・16	アルゼンチン	同国で16日まで開催された第23回マルデルプラタ国際映画祭で、是枝裕和監督の「歩いても 歩いても」が最高賞の最優秀作品賞、黒沢清監督の「トウキョウソナタ」が最優秀監督賞を受賞した。
11・16	ボリビア	住友商事は、権益35%を保有するボリビアの銀、亜鉛、鉛鉱山について、残りの権益65%をすべて買い取ることで米鉱山運営会社のエイベックスシルバー社と基本合意した。買収金額は、2250万ドル(約20億2000万円)。同鉱山は同国南西部にあるサンクリストバル鉱山で、2007年8月から生産を開始した。
11・20	メキシコ	来日中の同国ファン・マヌエル・ロブレド外務次官(多国間問題・人権担当)は朝日新聞記者との会見で、両国が2009年から国連安保理の非常任理事国になることを念頭し「世界経済の問題や気候変動に対処するため、日本と協力したい」と述べた。
11・22	コロンビア	ペルーを訪問中の麻生太郎首相は、リマ市内でコロンビアのウリベ大統領と会談し、投資協定の締結に向けた交渉を開始することで合意した。
11・25	アルゼンチン	同国サッカー協会のグロンドーナ会長は、2011年の南米選手権(コパ・アメリカ)を自国開催し、大会に招待チームとして日本とメキシコを招く意向を示した。
12・4	コロンビア	日野自動車は、コロンビア工場の生産ライン稼働式典を開いたと発表した。中南米では初の自社工場となる。
12・10	メキシコ	三井物産が、同国南西部のハリスコ州グアダラハラ市内の下水処理サービス事業を受注した。設備の設計・建設から操業・保守まで20年間にわたり請け負うもので、総事業費は約70億円。
12・10	ブラジル	リンナイがブラジルでガス給湯器を大幅増産すると報じられた。現在年間1万5000台の生産台数を2011年までに10万台規模に引き上げ、同国国内に加え、アルゼンチンやチリなど南米各国へも輸出する。

12・12	ブラジル	自動車業界をはじめとした景気後退が、東海地域の日系ブラジル人児童の教育現場に影を落としていると報じられた。親が仕事を失い、ブラジル人学校を辞めざるを得ない子供が相次いでいる。
12・12	ベネズエラ	同国出身で世界的に注目を集めている指揮者、グスターボ・ドゥダメルが来日した。同国で貧困層の子供を集めて音楽教育を施す中から育成されてきた若手から成る、シモン・ボリバル・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラと共に公演を行う。

#### 参考資料

- (1)聞蔵IIビジュアル。
- (2)日経テレコン21。
- (3)イベロアメリカ研究所新聞切り抜き(2008年)。

## 《資 料》

### 日本・ラテンアメリカ関係日誌－2009年－

月 日	国名	記事
1・3	ブラジル	カシオ計算機はブラジル・サンパウロ市に販売会社「カシオブラジル」を設け、デジタルカメラや時計の販促活動を強化する。ブラジルのデジカメ販売は先進国と同様に、家電量販店が中心となりつつある。
1・5	中南米	日本貿易振興機構(ジェトロ)が中南米進出日系企業を対象にまとめた経営実態調査によると、2009年の営業収益が「改善する」と回答した企業は45.0%、「横ばい」が47.3%、「悪化する」が7.8%だった。ジェトロでは「ここ数年の調査では『改善する』との回答率が最も高い傾向にあったが、今回は『横ばい』とした割合が最も高かった」としている。
1・6	ブラジル	交通事故を装って保険金をだまし取ったとされる事件で、詐欺罪に問われていたブラジル国籍の自動車修理工サカモト・アドリアノ被告に対する初公判が、名古屋地裁岡崎支部であり、サカモト被告は「間違いありません」と述べ、起訴事実を認めた。
1・7	アルゼンチン	ホンダは2009年後半に計画していた乗用車工場の稼働を半年以上延期する。小型車を年間3万台生産する方針だったが、南米でも乗用車需要が急減していることから先送りする。稼働は早くても2010年半ばになる。
1・9	ブラジル	日本からブラジルへの「出稼ぎ送金」が急増している。ブラジル中央銀行の調べによると、送金額は10月に前半同月比73%増の9400万ドル(約86億円)を記録した後、11月も11%増、12月も高水準が続いたとみなされている。景気悪化で仕事を失った日系ブラジル人らが日本での資産を処分して帰国する動きが広がっていることが送金増の原因。
1・10	ブラジル	双日は、石油業界が自動車向けに10年から本格導入するバイオ燃料「ETBE」について、ブラジル石油化学大手ブラスケム社と売買契約を結んだ。09年から輸入を始める。一部は欧州に輸出し、10年以降は年間15万キロリットルの取り扱いを目指す。
1・13	ペルー	同国での半世紀に及ぶ発掘調査の歩みを振り返る「日本アンデス考古学調査50周年記念公開シンポジウム」が東京都内で開かれた。遺跡の保存活用のあり方など、「文明との対話」をめぐって活発な議論が展開された。
1・15	ブラジル	横浜ゴムは自動車部品・タイヤ大手の独コンチネンタルと、ブラジルでのタイヤ生産で連携を始めた。同国のバイーア州にあるコンチネンタルの工場から横浜ゴムブランドの乗用車用タイヤの供給を受ける。自社工場の建設も計画しており、中長期的な重要拡大が見込める新興地域での事業基盤の確立を急ぐ。

1・16	ブラジル	袖ヶ浦市は、水害を被った姉妹市のブラジルのイタジャイ市に義援金49万7494円を送った。ブラジル南部にあるイタジャイ市は昨年11月下旬に豪雨に襲われた。袖ヶ浦市によると市内は完全に水没し、市民2人が死亡、人口16万人の85%が被害を受けた。
1・16	トリニダード・トバゴ ガイアナ スリナム グレナダ	外務省人事。岩田達明石油天然ガス・金属鉱物資源機構特命参与を、トリニダード・トバゴ兼アンティグア・バーブーダ兼ガイアナ兼グレナダ兼セントクリストファー・ネビス兼セントビンセント・グレナディーン兼セントルシア兼ドミニカ大使に任命。
1・18	ブラジル	不況が直撃している在日ブラジル人の生活状況の改善を求めるデモが、東京都心であった。約200人が「雇用」「教育」などと記されたプラカードを手に、ラップのリズムに乗って銀座を歩いた。
1・20	ブラジル	日立製作所がブラジルで外部記憶装置(ストレージ)関連事業を強化し始めた。同事業は日立の情報通信グループのなかでも特に海外で実績を積み上げ、海外売上高比率は約8割に達する。
1・20	ブラジル	ロッテは、環境保護団体のレインフォレスト・アライアンスの認証を取得したカカオ豆だけを使ったチョコレートを発売する。認証の取得には、栽培農園が森林保護や農薬の使用、野生動物の保護など14項目で一定の基準を満たすことが必要。新商品「エコチョコ・フォレスタ」はブラジルの契約農園で栽培したカカオ豆を100%使用する。
1・24	ブラジル	「派遣切り」などで親が職を失い、退学する子どもが相次いでいる岡山県総社市のブラジル人学校「エスコーラ・モモタロウ・オカヤマ」に、元少子化・男女共同参画担当大臣の猪口邦子衆院議員らが視察に訪れた。猪口議員は国際問題に詳しく、子どもの頃にブラジル在住だったこともあり、市内で講演会を開く機会に市側から視察するよう要請された。
1・25	ペルー	東海地域で働く日系ペルー人らを支援しようと、在名古屋ペルー総領事館などが、豊川市で集会を開いた。弁護士や総領事らが、ペルー人約40人から仕事や生活の悩みを聞き、助言した。こうした会を開くのは同領事館では初めて。今後は、ペルー人会のような組織を各地に立ち上げ、情報交換を密にする計画もあるという。
1・27	中南米	セイコーエプソンは、中南米の連結子会社で不適切な経理処理があったと発表した。2009年3月期を含め過去数年間にわたり、売掛金から控除すべき費用を処理せずに費用を過少計上するなど、累積で30億円規模の不適切な処理が判明した。
1・28	ブラジル	日本航空松山支店は、1日に2往復運航している松山―名古屋(小牧)線のうち1便に、ブラジル製の新小型ジェット機「エンブラエル170」を2月1日から導入すると発表した。同日導入する福岡―名古屋線と合わせて、同機は国内初の就航となる。

1・29	ブラジル	新日本製鉄は、持ち分法適用会社のブラジル鉄鋼大手、ウジミナスの株式を追加取得する方針を固めた。世界的な景気減速で欧州アルセロール・ミタルなど世界大手が事業縮小に迫られるなか、新日鉄はウジミナスとの関係を強化し、遅れていた海外戦略を加速させる。
1・29	チリ	サンティアゴ近郊で日本人3人が死傷した交通事故で、地元警察当局は、死亡した2人の身元について、ハヤミ・マサユキさんと、フチハタ・コウジさんと明らかにした。在チリ日本大使館で確認を急いでいる。関係者によると、2人は最近、仕事でチリを訪問していたという。
2・3	ブラジル	長崎市は、サンパウロの日本総領事館を通じて、ブラジル在住の日本人女性から被爆者健康手帳の申請書が届いたと発表した。女性は、在外公館での手続きを可能にした改正被爆者援護法に基づき1月に総領事館に申請していた。長崎市は今後、速やかに手帳を交付するとしている。
2・9	ブラジル	日本、韓国、スイス、ブラジルなど15カ国・地域は、保護主義に反対する共同声明をまとめ世界貿易機構(WTO)に提出した。金融危機を受けて各国で広がりつつある保護主義を牽制するのが狙いだ。
2・19	メキシコ	東京税関成田税関支署と県警は、昨年12月17日～今年1月28日にメキシコから成田空港に到着したメキシコ人男女7人を、それぞれ覚せい剤取締法違反容疑で現行犯逮捕し、千葉地検に送致したと発表した。
2・20	ブラジル	日本、ブラジルの両政府と経済界代表が、ブラジリアで貿易投資促進合同委員会の第1回会合を開いた。ビジネス環境整備に向けた情報交換などが目的で、日本側からはブラジルに輸入手続きや査証、税制などの改善を求める声が出た。一方、ブラジル側からは同国産牛肉の輸入解禁、在日ブラジル人学校の支援などの要望が上がった。
2・24	ブラジル	6月に開港する静岡空港を拠点に新規参入を計画している航空会社、フジドリームエアラインズ(FDA)はブラジルの航空機メーカー、エンブラエルから1号機を受領した。1号機はサンパウロ近郊で同社本社工場を飛び立ち、28日に静岡空港で関係者に公開される見通し。
2・25	ペルー	アラオス貿易・観光相は、都内でシンガポールやチリなどの4カ国が共同で進める自由貿易協定(FTA)について、「将来的なアジア太平洋地域内の自由貿易の中核であり、日本の参加を歓迎する」と語った。同協会は、2015年までに各国間の全品目の関税を撤廃することを目標に掲げており、ペルーも交渉参加を表明している。
3・2	ブラジル	浜松市内に開設されるブラジル総領事館で、総領事に着任したフィゲレイラ氏が、同市役所で記者会見した。フィゲレイラ総領事は「領事館の任務は限られているが、市との連携を深めながら、コミュニティーの発展や日本人とブラジル人の融合のために尽力したい」と語った。

3・6	ブラジル	山本恵一さんが医療功労賞海外部門を受賞した。山本さんは1994年、富山医科大学(現富山大学)教授を退官後ブラジルに医療協力プロジェクトのリーダーとして赴任。消化器疾患を中心に最新の医療技術の導入や人材育成に活躍した。ポルトガル語やスペイン語のテキスト刊行にも携わり、南米やアフリカ諸国の医療技術向上に貢献した。
3・9	ブラジル	サンパウロ州軍警察の警察官10人が、日本の交番制度や通信指令の運用状況を学ぶため、岐阜県警を訪れた。警察官と国際協力機構(JICA)による「ブラジル地域警察活動普及プロジェクト」の一環で、11日までの3日間、県警察を視察する。
3・11	アルゼンチン	神戸市は、同市中央区の輸入業者「富永貿易」がアルゼンチンから輸入したトマト缶詰から、基準値を超える残留農薬が検出されたとして、食品衛生法に基づき約24万缶の回収を同社に命じたと発表した。富永貿易は対象以外のアルゼンチン産輸入トマト缶も自主回収する。
3・11	ブラジル	戦前のブラジル移民にどのように政府や財界が関与していたのかをめぐる資料が、坂口満宏・京都女子大教授の調査で確認された。官民一体の組織「海外移住組合」が後押し、事実上の国策として渡航したケースが多数あったことを示す具体的なデータが文書に残されていた。ブラジル移民の実態を解明するうえで鍵になる資料と言えそうだ。
3・11	ペルー	藤森ムツエ(ペルーのフジモリ元大統領の母)さんが、東京都内の病院で死去した。96歳だった。元大統領の弟でペルー国会議員のサンティアゴ氏が明らかにした。96年に起きたペルーの日本人大使公邸占拠・人質事件では左翼ゲリラの人質となったが、大統領の母と気づかれないまま、発生直後に解放された。
3・13	ブラジル	ブラジル国営石油会社ペトロbrasと丸紅は、計画中の石油精製所建設プロジェクトを協力する覚書を交わした。ブラジル最大規模の製油所で、建設にかかる総投資額は200億ドル(約1兆9500億円)規模。ブラジル側は丸紅に資金調達や輸出業務での協力を求めており、具体的な条件や役割分担を詰める。
3・14	コロンビア	外国での女性の社会的地位についてオマーン、コロンビア、ニュージーランドの駐日大使が講演するシンポジウムが、福島県二本松市の県男女共生センターで開催された。女性の大学進学率が男性よりも高いコロンビアのカルデナス大使は「コロンビア女性は家庭生活と社会進出の両方を充実させたいと考えている」と説明した。
3・15	キューバ	野球の世界一を争う第2回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)は、サンティアゴ・デ・クーバで2次ラウンド1組の1回戦が行われ、連覇を狙う日本は6-0で、前回大会準優勝のキューバに快勝した。日本は準決勝進出をかけて、17日(日本時間18日)の2回戦で、韓国ーメキシコの勝者と対戦する。
3・19	ウルグアイ	1972年にアンデス山脈にウルグアイの旅客機が墜落し、16人が冬山で72日間を生きて発見された事故。生還者全員の証言を中心に、事故の様子を再現したドキュメンタリー映画「アライブ―生還者―」が公開される。極限状況で生きることへの意志が描かれた作品の公開を前に「セルバンテス文化センター東京」で写真展も開催されている。

3・24	ブラジル	サッポロビールは、ブラジル国営石油会社ペトロブラスと共同で、サトウキビの搾りかすなど農産物の残渣から水素燃料を生産する実証実験を始めると発表した。ペトロブラスは、サッポロから技術を導入してサンパウロ郊外で試験設備を建設、10月から生産を始める計画だ。
3・27	コロンビア	東京都渋谷区の代々木公園で2006年4月、米国籍の男性が刺殺された事件で、殺人容疑で国際手配されていたコロンビア国籍のグティエレス・アンドレス容疑者が、同国の裁判所に出頭して有罪判決を受けていたことが、警視庁への取り調べでわかった。同容疑者は元駐日コロンビア大使の長男。
4・3	コロンビア	市民生協やまなしは今月から、コロンビア産のバナナを対象に「フェアトレード」と呼ばれる商取引に取り組んでいる。途上国の農産物を安価で仕入れる先進国の慣例を改め、適正な対価を支払うことでその経済的自立を促す狙いで、600グラム相当の1袋を通常より高い298円で組合員ら県内の消費者に販売する。
4・3	ペルー	約9万人の日系人を擁する同国で、移民110周年を記念してカヤオ特別区の大通りの名前を「ハボン(日本)」と改める記念式典が開かれた。110年前のこの日、最初の移民団790人を乗せた「佐倉丸」がカヤオ港に入港。その後、排斥運動や強制収容などの苦難を味わったが、ブラジル、米国に次ぐ日系社会を築いている。
4・3	プエルトリコ	双日は、プエルトリコで韓国の現代自動車製品の輸入販売事業を開始すると発表した。三菱自動車の現地子会社から同事業を買収した。プエルトリコは年10万～12万台程度の安定した自動車需要があり、双日は参入で中南米での自動車事業を拡大する。5年後には年間1万台の現代車を販売し、10%の市場シェアを獲得することを目指す。
4・4	ブラジル	群馬県高崎市の学芸館高校(通信制、私立)が2009年度から、経済的に苦しい日系ブラジル人生徒の学費延納を認めることが分かった。不況で職を失う日系人が急増する中で、生徒が学業を継続できるようにするための措置。在日外国人が奨学金制度を利用するのが難しい現状で、画期的な制度となりそうだ。
4・6	ベネズエラ	野球好きで知られるチャベス大統領が、首相官邸で麻生首相と会談し、ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)の話題で野球談議に花を咲かせた。原油価格下落で苦しい経済運営を迫られる大統領の来日は、油田・ガス開発に向けた日本の協力獲得が最大の目的。
4・6	ベネズエラ	石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)、国際石油開発帝石、三菱商事の3者は、ベネズエラの油田開発について共同調査を行うことで合意した。日本とベネズエラ両国政府が3月、エネルギー開発分野で協力することを受けたもの。2年の調査で事業性の可否を判断する。
4・8	パラグアイ	日系人農家らが独立行政法人国際協力機構(JICA)から同国の直営農業試験所を引き継ぎ、独自運営する計画が進んでいる。財団を創設し、パラグアイの小規模農家の支援や人材育成、現地の大学・研究機関との連携に取り組む。試験場は1962年の発足。半世紀近く前に植えた苗は大きく育ち、本格的に独り立ちする時期を迎えた。

4・8	ペルー	日本とペルー両政府は、経済連携協定(EPA)締結に向け交渉をはじめの方針を固めた。麻生首相とペルーのガルシア大統領が電話会談し、交渉入りで合意をする見通し。日本は関税撤廃による乗用車などの輸出拡大を、ペルーは日本企業の投資や進出の増加を期待する。10年中の締結をめざす。
4・9	ブラジル	ブラジル人約1万8000人が住む浜松市の企業経営者らが2月に日伯交流協会を設立した。学長を務める静岡文化芸術大が掲げる「多文化共生」の教育理念に通じ、「熱いハートをもつ飾りになれば」と引き受けた。10日に教育分野の支援策を話し合うという。
4・10	ボリビア	朝日放送(大阪市)が今年1月に放送した番組で出演タレントがコカの葉をかむ場面があり、近畿厚生局麻薬取締部が規制薬物の使用を扇動することを禁じた麻薬特例法に抵触する可能性があるとして、朝日放送に口頭で注意していたことが分かった。番組は、露天でコカの葉が売られていることを紹介。タレントが葉をかむ場면을放送した。
4・11	メキシコ	同国のカバーニャス駐日大使夫人は、東京・港区のホテルで開かれた慈善舞踏会「チェリー・ボール」の実行責任者という大役を務めた。日本とメキシコは今年、交流400周年を迎える。来日4年半になる大使夫人は記念行事に数多く招かれ、「両国の歴史的な年を祝うことが出来て大変名誉です」と話した。
4・17	ブラジル	阿波人形浄瑠璃「平成座」(徳島市川内町)が5月初めにサンパウロで公演することになり、座員らが飯泉知事を表敬訪問した。ブラジル県人会にあてた飯泉知事の親書を託された藤本友幸座長は「徳島とブラジルがなお友好的な関係が持てるよう座員一同で大役を果たしたい」と語った。
4・19	中南米	パナソニックは中南米向けに液晶テレビを増産する。メキシコの生産拠点に新たに中南米市場向け専用ラインを設置。ブラジルでも生産を拡大し、中南米向けの現地生産台数を2009年度に45万台と前年度の2.4倍に増やす。生産拡大でコスト低減も進め、成長市場での供給体制を強化する。
4・21	エクアドル	外務省人事。今井治大臣官房付を、エクアドル大使に任命した。
4・26	ブラジル	国営石油会社ペトロブラスのバルバッサ最高財務責任者(CFO)は、国際協力銀行(JBIC)と資金調達の交渉を進めていることを明らかにした。JBICによると同国が商業化を目指す深海油田の開発資金として、2011年をメドに国内銀行と数千億円規模の協調融資を実施する案などが浮上している。
4・27	ブラジル	文部科学省は、不況で家計が苦しくなり外国人学校に通えなくなった日系ブラジル人らの子どもが、学費負担が少ない日本の公立学校に転入しやすくするため、全国約50カ所に日本語教室を設置することを決めた。景気回復までの緊急措置として3年間実施する予定。
4・27	メキシコ	牛丼チェーンを展開する松屋フーズは、メキシコ産の豚肉を使った「豚テキ定食」の提供を一時中止することを決めた。同社は「安全と認識しているが、念のため自社で検査する」と説明している。

4・28	メキシコ	政府の新型インフルエンザ対策本部が決めた「基本的対処方針」では、発生が確認されている国々の中で、メキシコにだけ厳しい措置が取られた。死亡者が出るなど、「一番危険性が高い」(中曽根外相)ことが主な理由だが、同じく感染が確認された米国などへの渡航制限が経済的に与える影響の大きさにも配慮した結果だ。
4・30	メキシコ	コマツは建設機械用部品を生産するメキシコの工場を9月に閉鎖することを明らかにした。すでに2月に生産を休止した上で、200人の従業員の雇用契約も打ち切っていたが、今後も北米で油圧ショベルなどの需要低迷が長期化する見通しで、固定費削減には閉鎖が必要と判断した。
5・1	キューバ	外務省人事。高松明キューバ大使を、査察担当大使に任命した。
5・2	アルゼンチン	食糧危機を見越してアルゼンチンに農地を購入し、日系人農家に委託して大豆やトウモロコシなどを生産、輸入している穀物商社「ギアリンクス」の活動を紹介する常設展示コーナーが、岐阜県中津川市のサラダコスモ・ちりこ村の一角に開設された。
5・3	ブラジル	丸紅は、ブラジルの穀物大手アマーゴと提携し、非組み換え大豆の輸入量を11年をめぐりに現在の3倍の年30万トンに増やす方針。遺伝子組み換え作物の比率が高まる中、国内では非組み換え大豆の需要が根強いとみて安定供給を目指す。
5・8	アルゼンチン ペルー	日本人の父親が、婚姻関係のない外国人女性の胎児を、出産前に自分の子だと認めて日本国籍を得る「胎児認知」を悪用し、子どもの日本国籍を不正取得したとして、神奈川県警は正木弘、アルゼンチン国籍のイグレスィアス・ラウラ・マルセラ、ペルー国籍のサラサル・シルビオ・マルティンの3容疑者を逮捕した。
5・8	キューバ	日本とキューバの外交関係樹立80周年を記念し、キューバを代表する写真家ロベルト・サラスの作品を展示する「ソイ・クバーノ」(キューバ人の素顔)が、京都外国語大学で始まる。パン職人やダンサー、ミュージシャン、花売りなどキューバの人々を、それぞれの仕事場で撮影したポートレート33点を展示する。
5・11	ブラジル	三井物産が、遺伝子を組み換えていない大豆を出資先のブラジルの農場で大量生産し、今夏にも日本への出荷が始めることが明らかになった。米国などで栽培面積が減り、入手が困難になっている非遺伝子組み換え大豆を安定的に確保することが狙いだ。
5・14	ブラジル	来日中のサンパウロ市のカサビ市長は同市のモノレール計画について「日本企業は最も優位にある」とし、有力な選定先であることを明らかにした。計画中のモノレールは全長約23キロメートル、総事業費は約23億レアル(約1035億円)。車両や運行システムの調達先として日立製作所―三菱商事連合とカナダのボンバルディアが浮上している。
5・18	ボリビア ペルー	常陸宮ご夫妻が6月11日から22日までペルーとボリビアを訪問することが、閣議で了解された。両国が今年、日本人移住110周年を迎えるため、両国政府から招待を受けていた。

5・18	ブラジル	「デカセギ」のため日本に渡った日系ブラジル人らを励ます姿を追ったドキュメンタリー映画「ブラジルからきたおじいちゃん」の主人公紺野堅一さんが、肺がんのため亡くなった。96歳。同映画は40カ所以上で上映された。上映会場の客にインターネット通話で「どうかブラジルの人々を差別せず、思いやりの心で接してやって下さい」と訴えていた。
5・20	ボリビア	自動車用電池の原料として需要増が見込まれるリチウムの鉱業権益を得るため、住友商事と三菱商事が連合を組む。世界の埋蔵量の半分がある南米ボリビアでの開発に向け、共同で調査、研究を進める。国際的な希少資源の争奪戦の中で、日本メーカーへの供給を確保したい考えだ。
5・20	ブラジル	損保ジャパンは、ブラジルの保険会社マリチマ社に現地子会社を通じて総額144億円を出資し、普通株式の50%を取得すると発表した。同社の海外保険会社への出資額としては過去最大という。
5・27	ボリビア	先住民出身のモラレス大統領が大規模農園主の所有地を接収し、先住民に配分する政策を進めている。56年に結ばれた政府間協定にもとづく日本人移住者らは、この政策が先住民の土地回復要求を勢いづけ、自分たちの土地や権利が脅かされないかと不安を募らせている。
5・27	ブラジル	サンパウロ市にある広島県人会館の広島文化センター内に「広島大学ブラジルセンター」を開設した。広島大学とブラジルとの教育・学術交流を進めるのが狙いで、ブラジルをはじめとする中南米からの留学生の受け入れや共同研究、研究者の交流支援、ブラジルへの留学の支援などにあたる。今夏以降の本格的な業務開始をめざす。
5・29	アルゼンチン	丸紅は、アルゼンチンの食糧・食品最大手、モリノ・カニユエラスと穀物調達で包括提携したと発表した。出荷施設などに共同で投資し、大豆などの穀物を安定的に確保する。新興国の穀物大手との提携を加速し、穀物メジャーに依存せずに食糧を確保できるネットワークを構築する。
5・29	アルゼンチン	東京・上野の国立科学博物館で開催中の「大恐竜展～知られざる南半球の支配者」では、南米や南極大陸、アフリカ、インドで発掘された80点余りの標本が展示されている。世界最大級の肉食恐竜「マプサウルス」の化石が発見されたのは、アルゼンチン・ネウケン州の白亜紀後期(約1億年前)の地層で、当時は乾燥地だった。
6・1	ブラジル	森林総合研究所はブラジル政府と組み、熱帯雨林による二酸化炭素(CO2)の吸収を詳しく把握するほか、東京大学などはアフリカ南部で異常気象の被害を減らす研究を始める。経済成長などでCO2の排出増加が見込まれる新興・途上国の対策を後押しする。
6・3	南米 アルゼンチン	日本サッカー協会の小倉純二副会長は、日本が南米連盟から2011年南米選手権(コパ・アメリカ)アルゼンチン大会に招待されたことを明らかにした。近日中に正式な招待状が届く見通しで、同選手権への日本の出場は1999年のパラグアイ大会以来2度目となる。

6・3	ブラジル	戦前・戦後を通じブラジルなど南米に渡る移民が、渡航準備のため日本で最後に過ごした「旧神戸移住センター」が、「海外移住と文化の交流センター」として開館した。移住の歴史を展示するほか、定住外国人向けの電話相談や母国語教室などの支援策を手がける。
6・6	ブラジル	磐田信用金庫は、ポルトガル語講座を開講する。職員向け研修「いわしん金融塾」の一環で、一般の人も受講できる。講師は同信用金の日系ブラジル人職員が務める。
6・9	ブラジル	Jポップや漫画、アニメなどに代表される日本の若者文化をブラジルに広めようと、リオデジャネイロ在住のブラジル人による普及団体がこのほど発足した。在リオデジャネイロ日本総領事館によると、南米でこうした団体の創設は初めてといい、両国の新たな文化的架け橋にもなりそうだ。
6・10	ベネズエラ	昭和電工や神戸製鋼所など日本企業6社が、2割を出資しているベネズエラでのアルミニウム精錬事業から撤退することがわかった。合弁相手の現地企業が日本向けアルミ地金の価格引き上げを要求したのに対し、日本側が拒否したためだ。
6・17	チリ	住金物産はチリ産牛肉の本格輸入を始める。和牛交雑種の肉を、主力の豪州産より2割ほど安く調達し、「アンデスビーフ」のブランドで外食チェーンなどに販売する。2010年に輸入量を現在の5倍以上の月20～30トンに増やす。
6・24	ブラジル	国際石油開発帝石と双日は、ブラジルで開発に参画している深海油田で原油生産を開始したと発表した。2011年に日本国内の原油需要の2%程度に当たる日量9万バレルの生産を見込む。ブラジルで日本企業が参画する油田の生産開始は今回が初めてで、日本の原油調達先の多様化に貢献しそうだ。
6・30	中南米	キャノン是世界各国の仕向け地別に直送体制を構築する。間接物流を減らすことで物流費削減や配送期間短縮につなげる。商品サイクルが短くなるなか、市場の変化に素早く対応できる物流機能を育て、収益力を高める。ブラジル、チリ、ペルー、コロンビアなど南米のほか、メキシコやパナマなど中米で直送体制を構築した。
7・1	メキシコ	宮内庁は、皇太子が「日本メキシコ交流400周年」名誉総裁に就任すると発表した。メキシコ側はカルデロン大統領が名誉総裁に就任する。宮内庁によると、記念事業の実施は、昨年7月の北海道洞爺湖サミットの際に開かれた日本とメキシコの首脳会談で決まった。
7・9	ブラジル	麻生太郎首相は、ラクイラ・サミット会場でブラジルのルラ大統領と会談した。両首脳は、ブラジルで働いている日本人の企業駐在員や、在日ブラジル人が社会保障料の二重払いをしなくて済むように、社会保障協定の締結交渉開始で合意した。
7・14	ブラジル	三菱商事は2010年から、ブラジル産バイオエタノールを日本国内の自動車燃料向けに輸入する。ブラジルのエタノール最大手、コザンと3年契約を締結。石油大手が「バイオガソリン」として販売する燃料の添加物原料に加工する。コザンは最大で年間8万リットルの出荷を見込む。

7・14	ジャマイカ バハマ	外務省人事。山口祐志マイアミ総領事を、ジャマイカ兼バハマ兼ベリーズ大使に任命した。
7・20	パラグアイ	同国で雑貨店を営んでいた榎田光司さんが射殺された事件で、警察当局はパラグアイ人のエロイ・ドゥアルテ容疑者を逮捕した。同容疑者は自分の兄弟とブラジル人の男が殺害したと供述し、関与を否定しているという。
7・22	ブラジル	日本たばこ産業(JT)は、ブラジルの葉タバコ供給会社のカネンバーグ社とその関連会社を買収すると発表した。たばこ原料の葉タバコを安定して調達するため、10月をめどに買収手続きを終える。英の葉タバコ供給会社の買収と、米の葉タバコ供給2社との合弁会社設立との合計で、2億3千万ドル(約216億円)の費用を見込む。
7・24	ブラジル	新日本製鉄は、傘下のブラジル鉄鋼大手ウジミナスが2011年から稼働予定の新製鉄所の建設を、当面延期することを明らかにした。新設計画を発表した08年7月以降、景気が急速に悪化し、世界的な鉄鋼需要が当初の見込みを大きく下回ったためだ。新製鉄所は高炉を2基備え、ウジミナスのブラジル国内3ヵ所目の製鉄所となる予定だ。
7・25	ペルー	同国の北部、アンデス山脈のワスカラン山(標高6768メートル)を登っていた東京在住のアマチュア登山家、三井孝夫さんと、同行のペルー人ガイドが消息を絶ち、地元の出発ガイドらが捜索を開始した。2人は下山中に標高約6200メートル付近で行方を絶った。25日深夜、付近で雪崩が発生したとの情報がある。
8・2	ペルー	同国の独立188年を記念したイベントが、浜松市東区流通元町の浜松総合産業展示館(ZIVA)で開かれる。経済危機で外国人を取り巻く環境は厳しいが、「不況で職を失った人をお祝いごとで元気づけたい。日本人にもペルーを知ってもらおうチャンス」と主催者は期待する。
8・7	ドミニカ共和国 中南米	真夏の音楽フェスティバルとして定着した「イスラ・デ・サルサ」が8と9の両日、福岡市のシーサイドももち・地行浜で開かれる。13回目の今年も、中南米をはじめ世界各国からミュージシャンやダンサーが福岡に集合する。特にドミニカ共和国のスーパースター、フアン・ゲーラが出演するとあって、中南米音楽ファンの注目を集めている。
8・14	ブラジル	バレーボール女子の世界グランプリ木浦大会第1日は、韓国の木浦で1次リーグを行い、日本は北京五輪金メダルの強豪ブラジルに1-3で敗れた。日本の通算成績は3勝4敗、ブラジルは7戦全勝。
8・19	メキシコ 中南米	三菱電機は、メキシコで鉄道車両用電機品の生産能力を倍増させると発表した。エレベーターなどの製造も兼ねる現地工場に8億5000万円を投じ、鉄道専用棟を新設。2013年3月から稼働させる。需要が拡大する中南米地域での供給力を高めるほか、輸出入による為替変動の影響を抑え、安定収益を得られる体制を構築する。
8・23	ブラジル アルゼンチン	県内の外国人たちに日本の夏を楽しんでもらおうと、浴衣姿で養浩館庭園を散策する催しを県国際交流協会が開いた。中国、インドネシア、ブラジル、アルゼンチンからの留学生と研修生計14人が参加した。

8・24	ブラジル パラグアイ	高橋はるみ北海道知事は、南米訪問に出発する。ブラジルとパラグアイで北海道からの移住功労者を表彰し、開拓先で亡くなった人を慰霊する。道知事の両国訪問は99年の堀達也前知事以来。三笠市長や美深、浦河、安平、松前の各町長ら市町村の代表も同行し、9月2日に戻る予定だ。
8・26	ブラジル	同国では2014年の開業を目指す新幹線計画を巡って世界的な受注合戦が白熱している。10月に示される建設計画の入札条件の前に、日本企業は久々のビッグプロジェクトを獲得しようと売り込みに懸命だ。トンネル建設など日本が誇る新幹線技術の高さから有力視されているが、韓国やフランスなども官民を挙げた総力戦で臨んでいる。
8・26	ベネズエラ	同国で自動車を生産する双日の子会社は、MMCアウトモトリスが労働争議の激化を理由に生産を停止した問題で、同国の労働社会保障省は「操業停止は経営者側の一時的な判断で違法だ」として生産の再開を命令した。
9・1	ブラジル	国営石油会社のペトロブラスが50%出資する日伯エタノールはガソリンにバイオエタノールを3%混ぜたバイオ燃料「E3」を川崎市内の独立系セルフスタンドで一般向けに売る。販売量は月100キロリットル程度の見込み。国内の石油元売りが販売する「バイオガソリン」とは別規格で、両規格が共存する。
9・4	ホンジュラス	国際協力機構(JICA)の地域開発専門家として中米ホンジュラスに派遣されている有本稔さんが、3年ぶりに一時帰国した。現地では6月末のクーデターで大統領が国外追放され、首都で空港封鎖やストライキが続く。日本に3週間ほど滞在してとんぼ返りした有本さんは「来年10月までの任務を全うしたい」と話した。
9・8	ボリビア	国際協力機構(JICA)の事業でボリビアの水道管理職員が来日し、バイオトレイを製造する大中央電設工業をこのほど視察した。ボリビアでは下水の排出による水質汚染が懸念されており、環境に負担をかけずに排せつ物を処理できるバイオトレイの仕組みなどを学んだ。
9・9	チリ	日鋳金属と三井金属の銅鉄錬事業統合会社、パンパシフィック・カッパー(PPC)は、南米のチリで銅・モリブデン鉱山を開発すると発表した。PPCは現在、原料鉱石の18%を自前の鉱山から調達しているが、この比率を40%へ上げて原料の安定調達・供給を目指す。
9・17	ブラジル	日本とブラジル両国は、モザンビークの熱帯サバンナ地帯での食糧増産を狙った農業開発事業を3カ国で進める合意文書に署名した。日伯両国には、深刻な貧困・飢餓を抱えるアフリカの人道分野で国際貢献をアピールする狙いもある。
9・18	ブラジル	東京、名古屋に次いで国内3カ所目になる浜松ブラジル総領事館が、浜松市役所向かいにあるビル1階にオープンした。ブラジルの駐日大使と浜松総領事、川勝平太知事、鈴木康友市長らがテープカットし、県内に住むブラジル人の支援窓口としての開館を祝った。
9・23	南米	地上デジタルの日本方式(ISDB-T)の採用を南米に広めるための国際会議がペルーの首都リマで開催された。日本の原口一博総務相も出席し、すでに日本方式を採用しているペルー、ブラジル、アルゼンチン、チリの通信担当相とともに「リマ宣言」を採択した。

10・18	ブラジル	慶応大学の医学生3人が、7月から9月の65日間にわたりブラジル各地を巡回して医療現場を実体験した。慶応大学医学部国際医学研究会の事業で、1978年の創設以来、毎年、医学部6年生を中南米に派遣している。参加者の1人杉浦清昭さんは、「同じ国でこれほど医療の偏在があるとは」と衝撃を受けていた。
10・19	ブラジル	新日本製鉄の三村明夫会長ら日本とブラジルの経済人で構成する「日伯戦略的経済パートナーシップ賢人会議」は、サンパウロ市内でルラ大統領と会談した。高速鉄道建設などインフラ整備、深海油田開発などを重点的な協力分野とする両国関係の強化策を報告した。
10・20	ブラジル	同国のアマゾン川流域に日本人が移住してこの秋で80年が経過した。アマゾン移民とその子孫は、同国有数の工業都市マナウス帯の発展を支えている。マナウスの日系人は約3000人ほどだが、地元のアマゾナス連邦大学では日本語学科開設を準備中で、アマゾンに静かな日本語ブームも起きている。
10・21	エクアドル	開発途上国の人材育成などを担う国連訓練調査研究所(UNITAR)広島事務所の新所長にアレクサンダー・メヒヤ氏が就任し、県庁で記者会見を開いた。メヒヤ氏はエクアドル出身で、同国経済省副大臣や米ジョージア州ラテンアメリカ行政関係機関副会長などを歴任した。
10・25	ブラジル	南部のパラナ州からの経済視察団が、23日と24日の両日、愛知県内を訪れ、豊橋市では自治体やブラジル人団体などとの交流を深めた。豊橋市では、日本からブラジルへの移民100周年に合わせて同州を市長らが訪問し、州内のパラナバイ市と教育交流を始めている。
11・10	ブラジル	米州開発銀行(IDB)と去年結んだ「中南米での企業の社会的責任(CSR)の協力覚書」に基づき、第1号案件としてブラジルでの小規模農家の自立支援活動に参画する。関連費用として年間15万ドルを寄付する。活動実績を確認のうえ、最長3年間支援する。
11・17	メキシコ	信州大学は、米国とメキシコの研究者らと、ナノテクノロジー(超微細技術)を使ったカーボンナノチューブやフラーレンなどの炭素素材の共同研究を始める。科学技術振興機構(JST)の委託で実施する。遠藤守信・信州大工学部教授が中心となり、蓄電量や電導度を大幅に向上できる新素材の開発と利用をめざす。
11・19	ブラジル	「労働者」「移民」がテーマの写真シリーズで知られ、1970年代から世界の報道写真家に大きな影響を与えてきたブラジル人写真家、セバスチャン・サルガド氏の個展「アフリカ」が、恵比寿の東京都写真美術館で12月13日まで開催される。
11・21	ペルー	同国の北部にあるクントウル・ワシ博物館の維持・運営の支援を目的とする「希有の会」発足記念の懇親会が、ペルー大使館で開かれた。博物館は、古代アンデス文明形成期(紀元前2500年～紀元前後)の神殿跡であるクントウル・ワシ遺跡で、大貫良夫・東京大学名誉教授らが1989年に発見した黄金の副葬品などの発掘成果を展示している。

12・2	ブラジル	国際協力銀行は、ブラジル・サンパウロの環状高速道路の民営化プロジェクトに最大2億ドル(約174億円)を融資することを明らかにした。米州開発銀行(IDB)との協調融資で、期間は15年。金融危機の影響で、民間銀行から十分な長期融資を確保できないとして、IDBから要請を受けた。
12・9	ブラジル	ソフト開発のACCESSは、携帯電話向け地上デジタル放送「ワンセグ」とデータ通信を連携させた双方向サービスを実現するための仕様を、ブラジルの標準化団体に提案すると発表した。総務省の委託を受けたもので、ブラジルが採用した場合は国内メーカーの南米進出に一役買うことになりそうだ。
12・9	ブラジル	日本オリンピック委員会(JOC)の竹田恒和会長は、ブラジル・オリンピック委員会と来夏にパートナーシップ協定を結ぶ方針を明らかにした。2016年リオデジャネイロ夏季五輪に向け、日本選手団の強化合宿の拠点確保を円滑に進めることなどが狙い。
12・14	ウルグアイ	鳩山由紀夫首相は、ウルグアイのバスケス大統領と首相官邸で会談した。首相はコペンハーゲンで開催中の第15回国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP15)について、「お互いの協力の下に成功に導いていきたい」と述べた。大統領は環境分野での協力関係を深めたいとの認識を示した。
12・18	ブラジル	同政府は、高速道路の建設・運営事業者を選出する入札手続きを開始した。評価基準の原案は、政府の資金負担が少ない事業計画を示した応募者に有利になる内容で、日本勢を含めた各国の企業連合は資金調達力が問われる。サンパウローリオデジャネイロ間(約412キロメートル)の普通車運賃の上限は206レアル(約1万円)に設定した。
12・18	ウルグアイ	ウルグアイのバスケス大統領が11～15日まで訪日したのに伴い、日本に帰国した竹元正美・駐ウルグアイ大使は、公務を終え出身地の長野市に立ち寄った。目的の1つは大豆のPRのためで、「ウルグアイは良質の大豆を生産しており、長野で使ってもらいたい」と期待をかけた。
12・23	ベネズエラ	同国の大統領チャベス氏はカラカスで演説し、トヨタ、米ゼネラル・モーターズ(GM)、米フォード・モーター、伊フィアットに対し、地元への移転が不十分だと非難した。特にトヨタに関しては、国外退去や工場接収の可能性を警告した。

参考資料

- (1)聞蔵IIビジュアル。
- (2)日経テレコン21。
- (3)イベロアメリカ研究所新聞切り抜き(2009年)。